



# 角 笛 会 会 報

ホームページ: <http://www.tsunobue.org/>

発行所

日本大学生物資源科学部  
校友会 角笛会

〒252-0880

藤沢市亀井野1866

0466-84-3634



## 巻頭のご挨拶

角笛会会長 鳥海 弘 (昭和50年卒)

角笛会会員の皆様方には各分野でご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。社会では某国の大統領一人の施策に振り回され、国内では選挙結果の不安定な政局により先行き不透明感があります。また猛暑・酷暑であった異常気象と不安定な社会情勢ですが、新型コロナウイルス感染症の影響はほとんど払拭され通

常の生活様式に戻りました。

その中、3月には学位記等伝達式に出席し若い年代の卒業生に校友会や獣医師会について話をする機会を得ました。また4月には開講式、5月には新入生歓迎会に出席をさせて頂き交流することができました。

振り返りますと、本年7月5日には日本大学獣医学会との共催で、多くの会員の出席の下、日本大学獣医学会ならびに角笛会定期総会を同日開催いたしました。獣医学会では13題の一般講演と3名の先生による教育講演が行われた中、角笛会元事務局長の鎌田寛先生の「残像 Summin Up-私の獣医師修行-」は記念講演の感があり興味深く聴講させていただきました。また当日は終日、学生と求職者のマッチングの就職説明会のブースを設けました。

本年度の定期総会では報告事項3件と協議事項6件の議案を上程しました。令和6年度事業報告ならびに会計収支決算報告、令和7年度事業計画並びに予算、日本大学獣医学会の角笛会組織内運営について、角笛会会則の一部改正等、について慎重な審議を頂き、すべての議案が滞りなく承認されました。

また総会にて角笛会に対する永年のご貢献により、角笛会功勞表彰を受賞された4名の先生方には衷心よりお慶びを申し上げますと共に、今後もご健勝にてご活躍されますよう祈念申し上げます。総会終了後には昨年に続き懇親会を食堂棟にて開催し、多くの会員や学生が参加し交流を深めました。

例年、角笛会総会と日本大学獣医学会が同日開催の恒例となっておりますが、本質は別組織です。本来であれば両者が一つの大きな拡充した組織となれば、さらに充実した活動が出来るのではないかとの方針の基、昨年度に開催された常任幹事会にて本件は継続審議となっておりますが、本年度の総会にて角笛会の傘下に日本大学獣医学会が属する形での合流が承認されました。「日本大学」の冠を付した学会名は一度消滅すると再興は困難ですので、実際の運営等の詳細は今後の課題となります。第5号議案に上程されました角笛会各支部の活動状況調査においては全国の30支部から回答を得ましたが、支部間格差や地域差があり活動が活発とは言えない支部もあり、本部への会費納入がない支部も散見されました。本会費収入の減額や校友会本部からの何が何でも還付率を4割に減額しようとする方針により、学部校友会への還付金の減額により、本会の本年度予算は昨年度より30%も減額した予算編成となりました。今後も本部校友会から学部校友会への一方的な還付金の減額により、さらに厳しい予算編成となり本会活動に影響が出ることが予測されます。角笛会活動ですが、準会員である在校生が将来、角笛会に関心を持ち入会し活動していただくために、かなりの部分を在校生向けの事業を充実することに重点を置いております。本会も若い会員の活動が低調である故に、本方針は将来のための投資ということで今後も継続して対応していきますので、皆様のご理解と協力を得て組織の充実を図っていきます。

また本年は、第21回日本大学医療系同窓・校友学術講演会を薬学部が担当で、10月19日(日)に市ヶ谷の日本大学校友会会館である「桜門会館」にて開催されました。講演会テーマは「日大医療の最前線」で、角笛会からは鯉江洋教授による「Zoobiquity(汎動物学)さまざまな動物の心臓病態生理学」をテーマに講演をいただきました。総合大学である本学の医療系の同窓が集まり共通のテーマを追求することは非常に素晴らしいことであり、日本一の総合大学である本学であればこそ出来得る業です。

本年1月に仙台で開催された日本獣医師会獣医学術学会年次大会に合わせて開催されました角笛会の交流会には、酒井健夫前学長、丸山総一前学部長、藏内勇夫日本獣医師会会長はじめ多くの同窓の参加をいただき盛大に開催できました。設営を頂きました宮城県有志の先生方には大変感謝申し上げます。これが契機となり支部の無かった県支部の設立の申請が総会にて承認されたり、支部活動が活性化されたりしております。

来年度は令和8年4月21~24日に東京国際フォーラムにて31年振りに日本開催される世界獣医師大会(WVAC)に合わせて開催を計画しておりますのでWVAC参加共々多くの参加をお待ちしております。

角笛会は東京獣医学校(1907)以来118余年の歴史があります。その校歌【北原白秋作詞、山田耕作作曲(日本大学校歌作曲者)】「TVC牧歌」の歌詞、「角笛は響く 愛は際なし 今起る牧歌 Hallow! T.V.C.! ~」に由来しており、2年後の'27年には120周年を迎えますので、記念事業の開催等を常任幹事会に諮っていかうと考えます。

角笛会は単なる校友会ではなく、高度専門職業人である獣医師として社会貢献する場でもあります。本学獣医学科の卒業生は誰しもが角笛会会員であります。現在、角笛会で活動されていない卒業生の皆様には世代を越えて校友と触れ合い、社会貢献する活動や次世代を担う在校生との交流を共に致しませんか。本学の獣医学科から獣医学部への独立移

行のためにも、特に若い世代の新鮮な感覚と行動力を持つ卒業生が角笛会の一員として活動され、組織の活性化を図っていただくことをお願いすると共に、心より皆様の参加をお待ちしております。

現在、全国には約数千名以上の角笛会会員が在籍していると推測されており、多くの会員が各分野でご活躍されております。角笛会は本部と都道府県毎に支部があり、本部では同窓はもとより準会員支援事業の他にも幅広い活動しております。毎年会報を発刊し大学の近況、全国の校友の動向、クラス会等の情報を発信しております。会員からの情報は本会HPを通してお知らせしています。角笛会名簿の維持管理の目的で同期会開催に際し、同期会名簿の提出をもって1万円の補助を行っておりますので、積極的に利用して頂きたく要望があれば本部に連絡ください。

角笛会報も第41号を発刊するに至りましたが、現在はデジタル化の時代とは申せ、紙媒体の分会報を刊行しているのは本学部の中でも2学科のみです。これもひとえに会員諸兄のご協力の賜物と感謝申し上げます。校友諸兄に本誌を拝読していただき、角笛会の現況や活動、会員の情報をお届けできれば幸いに存じます。

多くの会員が各方面で活躍されておりますが、本会同窓でありワンヘルスを推進する藏内勇夫日本獣医師会会長は、現在世界獣医師会(WVA)次期会長としても活躍中であり、来年4月に開催されるWVA大会にて正式に会長に就任されます。他にも多くの校友が実に各方面で活躍されています。若い獣医師の皆様には是非、角笛会で活動し多方面で活躍する校友との交流をお願いいたします。

結びとなりますが、この会報が発刊される頃には平常な気候になっていることと思いますが、角笛会会員の先生方のご多幸とご健勝ならびに益々のご活躍を祈念いたしまして巻頭の挨拶いたします。



## ご 挨 拶

獣医学科主任 渋谷 久 (昭和62年卒)

角笛会の先生方には獣医学科の教育、研究、そして就職など多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。学科教員を代表して厚く御礼申し上げます。

獣医学科の近況を報告します。2025年2月12、13日に第76回獣医師国家試験が行われ、本校から126名が受験し、うち96名が合格しました。合格率が17大

学中最下位という残念な結果になりました。学科内で分析したところ、コロナ禍で単位認定が緩み、十分な学力がないまま進級した可能性が考えられました。また本学部では令和5年度から組織改革が進められており、一部の獣医学科教員の獣医保健看護学科への移動に伴い、教員一人当たりの教育負担が以前よりも増した分、教育の質が低下したことも挙げられました。これらの要因に対する対応を考え、次年度の国家試験では一人でも多くの獣医師を輩出することを科内で確認しました。

令和7年度の獣医学科受験者数はA個別方式第1期が10.4倍、第2期15.7倍、のべ1300名が受験しました。昨年度より受験者数が130名増加しました。学校推薦型選抜の公募制推薦入試では3.8倍、総合型選抜の校友枠は2.6倍と例年に近い競争率でした。4月には128名の新入生を向かい入れ、1年次担任の橋本統先生と成田貴則先生とともに、スポーツフェスタそして新入生歓迎会を楽しみました。角笛会準会員支援の一環として、スポーツフェスタでは獣医学科専用Tシャツ、新入生歓迎会では多くの景品を角笛会より寄贈していただきました。毎年、鳥海弘会長にご来賓いただき、角笛会についてお言葉を頂いております。在学生に角笛会の存在を知って頂く、いい機会になっています。

獣医学科の新規教員として獣医食品衛生学研究室に日向綾子専任講師が着任しました。昇格教員としては大野真美子専任講師が准教授になられました。現在、特任教授を入れて専任教員40名体制で学科を運営しています。獣医保健看護学科に出向のような形で5人の臨床教員が所属しており、数年後には獣医学科に帰還する予定です。しかし獣医学科の授業に関しては従前どおりに担当していただいているので、その負担は大変なものです。獣医学科教員および獣医保健看護学科教員の増員を進めるために今後も大学に積極的に働きかけ、教育体制の充実を図っていきたいと思います。

角笛会の皆様には変わらぬご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 令和7年度 角笛会総会・ 第60回日本大学獣医学会 合同開催

事務局 木庭 獺達 (平成22年卒)

令和7年7月5日(土)、日本大学生物資源科学部1号館121講義室において、令和7年度角笛会総会および第60回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会は渋谷久学会会長のもと、13題の一般公演と獣医学科の教員3名(日向綾子先生、越後谷裕介先生、鎌田寛先生)による教育講演が行われました。

角笛会総会では鳥海弘会長(昭和50年卒)から挨拶があり、総会は小熊圭祐議長の進行で審議が行われ、令和6年度事業活動および会計収支報告、令和7年度事業計画および予算案等が審議されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、藤田実氏(神奈川県)、北澤浩一氏(神奈川県)、新堀精一氏(栃木県)、西川眞氏(新潟県)の4名に賞状と記念品が授与されました。



鎌田先生のご講演



日本大学獣医学会・角笛会の懇親会にて

### 【第60回日本大学獣医学会プログラム】

会長：渋谷 久

#### 教育講演

座長：渋谷 久(獣医 病理学研究室)

#### 1. 「熱帯・亜熱帯地域のズーノーシスー スナノミ症」

日向綾子先生(日大・獣医食品衛生研究室)

#### 2. 「実験動物および動物実験に対する獣医学的ケア」

越後谷裕介先生(日大・実験動物学研究室)

#### 3. 「残像 Summin Upー私の獣医師修行ー」

鎌田 寛先生(日大・獣医臨床病理学研究室)

#### 一般講演(口頭発表)

座長：片倉文彦(魚病学/比較免疫学研究室)

#### 1. 「海棲哺乳類の多形核白血球(PMN)が有する低温駆動性貪食能とその種多様性」

○石坂聡一朗<sup>1)</sup>、瀬川太雄<sup>1)</sup>、白形知佳<sup>2)</sup>、伊藤琢也<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>日大・獣医衛生、<sup>2)</sup>新江ノ島水族館)

#### 2. 「ジンベエザメ腸内に棲息する未知ウレアプラズマの分離と共生関係の検討」

○齋藤柚月<sup>1)</sup>、瀬川太雄<sup>1)</sup>、中島 悠<sup>2)</sup>、伊東隆臣<sup>3)</sup>、  
喜屋武樹<sup>3)</sup>、芳井祐友<sup>3)</sup>、伊藤琢也<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>日大・獣医衛生、<sup>2)</sup>海洋研究開発機構、<sup>3)</sup>大阪海遊館)

座長：小熊圭祐(獣医伝染病学研究室)

#### 3. 「ハリネズミの乳頭腫における新規パピローマウイルス関与の可能性」

○小長井陽太<sup>1)</sup>、遠矢幸伸<sup>1)</sup>、二階堂雅人<sup>2)</sup>、木庭獺達<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>日大・獣医微生物、<sup>2)</sup>東京科学大学・生命理工学院・  
二階堂研究室)

#### 4. 「ヘルペスウイルス UL26 プロテアーゼの活性および基質特異性の解析」

○小川健司<sup>1)</sup>、市川保恵<sup>2)</sup>、吉田 稔<sup>2)</sup>、小熊圭祐<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>日大・獣医伝染病、<sup>2)</sup>理研・創薬シーズ開拓基盤ユニット)

座長：伊藤琢也(獣医衛生学研究室)

5. 「Mesocoestoides vogae 成虫寄生例の国内初報告」

- 日置尚之<sup>1)</sup>、松谷正巳<sup>2)</sup>、関まどか<sup>3)</sup>、増田 絢<sup>1)</sup>、佐藤雪太<sup>3)</sup>、松本 淳<sup>1)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・医動物、<sup>2)</sup>パインズ動物病院、<sup>3)</sup>岩手大学・獣医寄生虫学研究室)

6. 「付属演習林における蚊の発生および鳥マラリア原虫保有に関する定点調査」

- 細川 祐<sup>1)</sup>、菅澤颯人<sup>2)</sup>、越後谷裕介<sup>1)</sup>、佐藤雪太<sup>2)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・実験動物、<sup>2)</sup>岩手大学大学院・獣医・獣医寄生虫)

座長：安井 禎(獣医解剖学研究室)

7. 「ウサギにおける多臓器転移を伴う涙腺癌」

- 奥村奈佳<sup>1)</sup>、Timothy Brunner<sup>2)</sup>、Javier G. Nevarez<sup>2)</sup>、Bianca Santana de Cecco<sup>3)</sup>、Kaitlyn E. Wooton<sup>4)</sup>、Nanny Wenzlow<sup>4)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・獣医病理、<sup>2)</sup>Louisiana State University・Zoological Medicine、<sup>3)</sup>Louisiana Animal Diagnostic Disease Laboratory、<sup>4)</sup>Texas Tech School of Veterinary Medicine)

8. 「海岸岩礁上で発見された犬の不審死1例の法獣医病理学的検索」

- 田中伶弥<sup>1)</sup>、近藤広孝<sup>1)</sup>、池田光宏<sup>1)</sup>、渋谷 久<sup>1)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・獣医病理)

9. 「窒息死における法医学と法獣医病理学の比較・検討」

- 西村璃乃<sup>1)</sup>、近藤広孝<sup>1)</sup>、渋谷 久<sup>1)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・獣医病理)

座長：合屋征二郎(獣医放射線学研究室)

10. 「蛍光 in situ ハイブリダイゼーション法を用いた筋強直性ジストロフィー1型モデルマウス老化骨格筋におけるRNA病巣検出」

- 木下 豪<sup>1)</sup>、津島咲良<sup>1)</sup>、越後谷裕介<sup>1)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・実験動物)

11. 「新規デバイスを使用した小型インコ類の覚醒下心電図波形」

- 瀬谷祐槻<sup>1)</sup>、桐原理奈<sup>1)</sup>、中山駿矢<sup>1)</sup>、牧野幾子<sup>1)</sup>、水上昌也<sup>1,3)</sup>、鯉江 洋<sup>1)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・獣医生理、<sup>2)</sup>ふじさわアビアンクリニック、<sup>3)</sup>水上犬猫鳥の病院)

座長：山谷吉樹(獣医麻酔・呼吸器学研究室)

12. 「カニクイザルにおける右室二腔症および右室二腔症様態を発症した2症例」

- 米田伊吹<sup>1,2)</sup>、中山駿矢<sup>1,2)</sup>、鯉江 洋<sup>1)</sup>、揚山直英<sup>2)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・獣医生理、<sup>2)</sup>医薬基盤・健康・栄養研究所 霊長類医科学研究センター)

13. 「ムコ多糖症Ⅵ型と診断した犬の1例」

- 山崎敦史<sup>1,2)</sup>、木下淳一<sup>3)</sup>、大和 修<sup>4)</sup>、嗣 裕磨<sup>2)</sup>、種子島貢司<sup>2)</sup>、枝村一弥<sup>1,2)</sup>
- (<sup>1)</sup>日大・獣医外科、<sup>2)</sup>日大・動物病院整形外科、<sup>3)</sup>木下動物病院、<sup>4)</sup>鹿児島大学臨床病理学研究室)

### 令和7年度 角笛会主催 獣医療系企業就職説明会の開催

事務局企画広報担当 片倉 文彦 (平成20年卒)

令和7年7月5日(土)(令和7年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会と同日)、生物資源科学部校友会準会員(学生)のための獣医療系企業就職説明会が開催されました。コロナ禍などによる中断を経て6年ぶりの開催となりました。趣旨・目的に賛同し参加した動物病院や地方自治体等26団体による個別相談ブースが用意され、学生約100名(延べ人数)が参加しました。今回は獣医学科学生だけでなく、新設から3年目の獣医保健看護学科の学生も多く来場しました。就職活動だけでなく低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、企業・団体、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。



就職説明会の様子



#### 角笛会主催 獣医療系企業 就職説明会

#### 未来のキャリアに出会うチャンス

\*角笛会は一世以上の歴史をもつ獣医学科卒業生が集う同窓会です。

令和7年7月5日(土)  
11:00~15:00

場所：1号館1階(111・112・113講義室)

対象：獣医学科学生を含む、生物資源科学部全学科の学生  
(生物資源科学部校友会準会員)

参加費：無料

参加企業リスト  
(6月23日時点、申込順)

- |                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| かなざわ動物総合医療センター            | どうぶつ総合病院 専門医療&救急センター |
| 日本動物医療センター                | 株式会社 野谷動物病院グループ      |
| 草津犬猫病院                    | 株式会社コジマ動物病院          |
| 福島県庁                      | 甲府ユリカ動物病院            |
| 後藤動物病院                    | 大分県高等学校              |
| 茅ヶ崎動物病院                   | 見附動物病院(株式会社スターベッツ)   |
| 宮崎県庁                      | 茨城県                  |
| あさかどうぶつ医療センター             | 直井動物病院               |
| 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構        | 熊本県庁健康危機管理課          |
| 社畜犬猫病院                    | フジタ動物病院              |
| マール動物クリニック                | グループ動物病院             |
| (有)タカクリ タカクリ動物病院・京都医療センター | (株)かわた カワタエワフインテックス  |
| 株式会社 JPRプリモ動物病院グループ       | JPB株式会社              |



昨年、早期の内々定の獲得率が上がってきています。早めの就活、そして様々な獣医療系企業への就職先を考える一助にしてください。

(出典：学情：2026年5月の調査結果)

総会資料

令和6年度 一般会計収支決算報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 本年会費	1,200,000	961,000	△ 239,000	各支部より961名×1,000円
2. 準会員費	2,200,000	1,966,000	△ 234,000	学部校友会
3. 学部校友会交付金	200,000	200,000		学部校友会(会報送料代)
4. 雑収入	58	22,733	22,675	角笛会同窓会残金、同窓会から寄付
5. 前年度繰越額	3,163,942	3,163,942	0	令和5年度分
収入合計(A)	6,764,000	6,313,675	△ 450,325	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 経常費	2,060,000	1,827,579	232,421	
(1) 会合費	10,000	6,260	3,740	会議等
(2) 交際費	300,000	252,770	47,230	支部総会祝い金・慶弔費・謝礼等
(3) 旅費交通費	1,000,000	869,990	130,010	支部総会旅費等
(4) 通信運搬費	50,000	101,016	△ 51,016	通信料・郵送料
(5) 事務局運営費	700,000	597,543	102,457	給与・消耗品等
2. 会報費	600,000	820,600	△ 220,600	会報40号
3. 名簿管理費	200,000	225,627	△ 25,627	業務委託費等
4. 準会員支援費	1,600,000	1,341,438	258,562	新入生・卒業生記念品
5. 褒賞費	300,000	175,450	124,550	功労賞
6. 学会補助費	200,000	200,000	0	
7. 医療系校友会補助費	130,000	130,000	0	
8. 組織拡充費	80,000	53,350	26,650	ホームページ管理等
9. 特別会計Ⅰ	0	0	0	名簿作成繰入金
10. 特別会計Ⅱ	400,000	400,000	0	将来事業繰入金
11. 特別会計Ⅲ	0	0	0	ANMEC有給研修医就職支援基金
12. 予備費	1,194,000	0	1,194,000	
支出合計(B)	6,764,000	5,174,044	1,589,956	

令和6年度次期繰越収支差額(C) = (A) - (B) 1,139,631円

令和6年度 特別会計Ⅰ 収支決算報告書【名簿会計】

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 名簿作成繰入金	0	0	0	一般会計より
2. 雑収入	701	0	△ 701	預金利息等
3. 前年度繰越額	3,047,299	3,047,299	0	
収入合計(A)	3,048,000	3,047,299	△ 701	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 名簿作成積立金	3,048,000	0	3,048,000	
2. 雑支出	0	0	0	郵便口座への振り込み手数料
支出合計(B)	3,048,000	0	3,048,000	

令和6年度次期繰越収支差額(C) = (A) - (B) 3,047,299円

令和6年度 特別会計Ⅱ 収支決算報告書【将来事業資金】

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 将来事業繰入金	0	400,000	400,000	一般会計より
2. ANMEC研究助成金*	0	0	0	一般会計より
3. 雑収入	0	0	0	預金利息等
4. 繰越額	0	2,955,273	2,955,273	
収入合計(A)	0	3,355,273	3,355,273	

\*今年度は休止

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 将来事業積立金	0	0	0	次回式典及び記念誌作成のための積立
2. ANMEC研究助成金*	0	0	0	
3. 予備費	0	0	0	郵便口座への振り込み手数料
支出合計(B)	0	0	0	

\*今年度は休止

令和6年度次期繰越収支差額(C) = (A) - (B) 3,355,273円

令和6年度 特別会計Ⅲ 収支決算報告書【ANMEC有給研修医就職支援基金】

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. ANMEC有給研修医就職支援基金	0	0	0	
2. 雑収入	0	0	0	
3. 繰越額	1,600,000	1,600,000	0	
収入合計(A)	1,600,000	1,600,000	0	

支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. ANMEC有給研修医就職支援基金	0	150,000	△ 150,000	30,000円×5名
支出合計(B)	0	150,000	△ 150,000	

(備考：特別会計Ⅲの雑収入は特別会計Ⅱの雑収入内に含まれる。)

令和6年度次期繰越収支差額(C) = (A) - (B) 1,450,000円

令和7年度 一般会計予算
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 本部会費, 準会員費, 学部校友会交付金, 雑収入, 前年度繰越額, 収入合計.

支出の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 経常費, 会合費, 交際費, 旅費交通費, 通信運搬費, 事務局運営費, 会報費, 名簿管理費, 準会員支援費, 褒賞費, 学会補助費, 医療系校友会補助費, 組織拡充費, 特別会計I, 特別会計II, 特別会計III, 予備費, 支出合計.

\*就職支援活動費を含む

令和7年度 特別会計I 予算【名簿会計】

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 名簿作成繰入金, 雑収入, 繰越額, 収入予算合計.

支出の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 名簿作成積立金, 【将来事業資金】へ繰り入れ, 雑支出, 支出予算合計.

令和7年度 特別会計II 予算【将来事業資金】

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 将来事業積立金, 【名簿会計】から繰り入れ, 雑収入, 繰越額, 収入予算合計.

\*今年度は休止

支出の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 将来事業積立金, 予備費, 支出合計.

令和7年度 特別会計III 予算【ANMEC有給研修医就職支援基金】

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

収入の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include ANMEC有給研修医就職支援基金, 雑収入, 繰越額, 収入予算合計.

支出の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(B), 前年度予算額(A), 前年度決算額, 前年度予算との比較(A)-(B), 備考. Rows include 支援基金積立金, 支援基金, 支出合計.

(備考：特別会計IIIの雑収入は特別会計IIの雑収入内に含まれる。)

## 和7年度獣医学科新入生歓迎会とNUBSフェスタ

1年次担任 橋本 統(平成5年卒)、成田 貴則

令和7年5月27日(火)、湘南キャンパス食堂棟3階にて、獣医学科の新入生歓迎会が賑やかに行われました。会場には角笛会会長・鳥海弘先生をお迎えし、1年次学生と教職員が一堂に会して交流を楽しみました。クイズ大会では、同窓会のご支援により聴診器やスクラブ、新江ノ島水族館の年間パスポートなど豪華な景品が用意され、会場は大いに盛り上がりました。当初予定されていた片瀬海岸での地引網は悪天候のため中止となったものの、歓迎会は最後まで笑顔と歓声に包まれていました。さらに、5月11日(土)には、学部グラウンドにてNUBSフェスタ(スポーツフェスタ)が開催されました。爽やかな天候の下、獣医学科の学生たちは、角笛会からご寄贈いただいた学生デザインのオリジナルポロシャツを身にまとい、元気いっぱいに競技へ臨みました。ディフェンディングチャンピオンとして出場した本学科は、近造隆文君と布桃百奈さんによる力強い選手宣誓で会場を沸かせ、5種目中、しっぽとりで2位、多項目タイムアタックで2位という好成績を収めました。このたびの新入生への温かなご支援に対し、角笛会の皆さまに深く感謝申し上げます。歓迎会やスポーツフェスタで培った絆と経験を胸に、学生たちがこれからの大学生活を力強く歩んでいくことを願っております。



選手宣誓



スポーツフェスタTシャツ(左:前面、右:背面) しっぽとり



## 令和7年度日本大学動物病院(ANMEC)便り

動物病院長 枝村 一弥(平成11年卒)

角笛会会員の先生方におかれましては、平素よりANMECの運営にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。ANMECは、平成7年5月10日に東京都世田谷区(東京キャンパス)から藤沢市(湘南キャンパス)へ移転し、今年で30年周年という記念の年を迎えました。これも、ひとえに皆様方のご支援のおかげであり、心より御礼申し上げます。

まずは、ANMECの近況として、今年度の人事からご報告致します。臨床系教員人事に変更はありませんでしたが、有給研修医として新規に6名を採用しました。有給研修医の給与増額や角笛会からの就職支援金のご協力もあり、合計13名(2年目4名、3年目2名、4年目1名)と増加しました。さらに、本年度の有給研修医採用試験の応募者が顕著に増加し、今後もその傾向は継続するものと予想されます。本年4月からは無給研修医(専科研修医)も増え、合計12名の獣医師が各診療科で研修を行っています。それに加えて、動物麻酔技能認定医を取得している獣医師と愛玩動物看護師を各1名採用しました。現在、ANMECは他の私立獣医大学附属動物病院に比べ人件費比率が最も低いことから、学部に対して人件費の増額と人員補充を要求しています。来年度には、獣医保健看護学科の新卒採用人事も始まります。今後、高次獣医療施設として社会に貢献するだけでなく、獣医師と愛玩動物看護師の教育施設としての機能を発揮できるように、人員体制を整えていきたいと思っております。

さて、ANMECは、昨年度末より日本動物病院協会(JAHA)にも加入しました。さらに、本年度は、米国動物病院協会(AAHA)による国際認証の再審査が行われる年であり、本年10月に書類および実地査察を受けて再認証を得ることができました。このように、ANMECは、JAHAおよびAAHAの両協会より認定を受けている国内で唯一の大学付属動物病院であり、最近では海外からの視察や研修も増えています。また、本年度には、最新のX線透視診断装置、超音波診断装置、超音波吸引装置を導入し、診断および治療の質の向上を図っています。さらに、行動診療科の小澤真希子専任講師によるパピークラスを開始しました。最近では、感染症科の松鶴彩教授による重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の抗原および抗体検査も始まりました。今後は、歯科、眼科、皮膚科の再開設も視野に入っています。産業動物においては、東京都と神奈川県でNOSAI診療を開始する予定です。このように、動物病院スタッフ一同、良い診療を通じて飼い主さんや先生方になお一層、満足して頂けるような動物病院作りに努めていきますので、何卒よろしくお願い致します。

臨床教育としては、獣医学科の学生による参加型臨床実習に加え、本年度より獣医保健看護学科の臨床実習も始まりました。従前から、日本小動物外科専門医のレジデント教育を行っていましたが、本年度からはアジア獣医専門医のレジデント教育も開始しました。さらに、卒業教育としてANMECセミナーも本格的に再開しました。このように、卒業教育の場としてもANMECを利用して頂けると幸いです。

末筆であります。ANMECスタッフ一同、先生方の見学を歓迎しています。お近くにお越しの際には、是非、ご連絡下さい。



## 動物医科学研究センターセミナー開催報告

### 動物医科学研究センターセミナー開催(第177回～第182回)

#### 第177回 (R6.10.15)

演題「魚介類を介するズーノーシス・アニサキス症の現状と課題」  
瀧澤文雄先生  
(福井県立大学 海洋生物資源学部 先端増養殖科学科)

#### 第178回 (R6.11.19)

演題「RNAウイルスによるRNA顆粒のダイナミクス制御」  
有海康雄先生  
(長崎大学 高度感染症研究センター ウイルス-宿主相互作用研究分野)

#### 第179回 (R6.12.17)

演題「どうするツキノワグマ ～生息の現状と管理の課題～」  
山崎晃司先生  
(東京農業大学地域環境科学部 森林総合科学科 森林生態学研究室)

#### 第180回 (R7.5.13)

演題「多様化するゲノム編集技術の現状と最新開発動向」  
佐久間哲史先生  
(京都大学大学院農学研究科)

#### 第181回 (R7.6.17)

演題「イノシシの生態とアフリカ豚熱・豚熱への対策とその研究」  
平田滋樹先生  
(農研機構畜産研究部門動物行動管理研究領域)

#### 第182回 (R7.7.22)

演題「Research Overview of the Laboratory of Animal Medicine.」  
詹昆衛先生  
(台湾国立嘉義大学 獣医学部 動物学科)

## 獣医学科の近況

### 【獣医師国家試験】

第76回獣医師国家試験が令和7年2月12日、2月13日にTOC有明(東京会場)にて行われました。日本大学獣医学科から126名が受験し、96名が合格しました。合格率は76.2%(全国平均71.9%)でした。

### 【表彰・受賞】

令和6年度の卒業生のうち、角笛会長賞が和田千穂氏、石川萌香氏に授与されました。

### 【博士(獣医学)の学位取得者】

令和6年度課程博士：衛藤妃奈野氏、田代 楓氏、槇島理紗氏、横森多夢氏

### 【退職】

本年3月をもって遠矢幸伸教授(獣医微生物学研究室)が退職されました。

### 【新任・昇格】

日向綾子専任講師(獣医食品衛生学研究室)、遠矢幸伸特任教授(獣医微生物学研究室)が採用されました。また、大野真美子専任講師(獣医産業動物臨床学研究室)が准教授に昇格されました。

### ■ 新任の先生の自己紹介



(獣医食品衛生学研究室)  
日向綾子専任講師

角笛会の皆さま、こんにちは。本年4月に獣医食品衛生学研究室に専任講師として着任いたしました日向綾子と申します。私は本学獣医学科を卒業後、東京都健康安全研究センターにて食品衛生および公衆衛生にかかわる業務に従事してまいりました。その後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科にて熱帯地域に分布する寄生虫症「スナノミ症」の空間疫学で博士(医学)を取得しました。大学院修了後には、ケニアにある国際昆虫生理生態学研究センターにて、引き続きスナノミの研究に携わってまいりました。このたび、母校にご縁を頂き着任することとなり、新しい講義棟やカフェテリア、タブレット端末で講義資料にメモを取る学生の姿に時代の移り変わりを実感しています。今後は、学生の学びに寄り添い、共に歩む教育を目指してまいります。在学中より賜りました多大なるご支援に心から感謝を申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### ■ 令和7年度獣医学科入試状況

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
A方式(第1期)	51名	908名	87名	10.4倍
A方式(第2期)	10名	392名	25名	15.7倍
N方式(第1期)	5名	301名	11名	27.4倍
N方式(第2期)	3名	194名	24名	8.1倍
一般推薦(指定校制)	5名	4名	4名	1.0倍
一般推薦(公募制)	13名	79名	21名	3.8倍
校友子女推薦(公募制)	若干名	13名	5名	2.6倍

**■ 学年担任(令和7年度)**

- 1年次 橋本 統教授(獣医毒性学)、成田貴則准教授(分子生物学)  
2年次 大滝忠利教授(獣医臨床繁殖学)、安井 禎准教授(獣医解剖学)  
3年次 伊藤琢也教授(獣医衛生学)、木庭彌達専任講師(獣医微生物学)  
4年次 山崎 純教授(獣医薬理学)、片倉文彦准教授(魚病/比較免疫学)  
5年次 浅野和之教授(獣医外科学)、越後谷裕介准教授(実験動物学)  
6年次 小川健司教授(獣医伝染病学)、住吉俊亮准教授(獣医臨床繁殖学)

**訃 報****追悼 岡野真臣先生**

獣医伝染病学研究室 教授 小川 健司(平成元年卒)

岡野真臣先生が2025年2月10日(月)に逝去されたとの知らせを受けた。ここ二年ぐらい、年賀状が返って来なかったので、心配をしていた。94歳とは世間で言えば大往生と言ってもいいかも知れない。今は、謹んで岡野先生のご冥福をお祈り申し上げる次第である。

岡野先生は、長きにわたり日本大学獣医解剖学研究室の教授を務められ、鋤鼻器の研究で、日本大学の教員として初となる日本獣医学会賞を受賞された。解剖から分派する形で組織発生学研究室の教授となられてからは、益々生き生きとして活発に研究を進められ、自ら学会発表していた姿が今も脳裏に焼き付いている。私が学生の頃は通常のネクタイであったが、若い頃は蝶ネクタイでお洒落な先生として知られていたと聞く。

真面目な印象が強く、融通の利かなそうな堅物イメージを持っている方もいるかも知れないが、決してその様な事はなかった。私が在学中は研究室のメンバーと一緒にスキーに行く習慣があったが、岡野先生も毎年参加されていた。スキー場のレストランで、コーヒーだったか、ビールだったか、記憶が定かではないが、とにかく岡野先生から御馳走になった事をよく覚えている。「御馳走するから、3時にロッジに来てね」と言われたので、数人で出向いて行って御馳走になった。若しかすると、岡野先生がコーヒーと言っていたのに、強引にビールを注文したのかも知れない……いや、それは流石にないか。私が人生で初めて畜産学会で発表した際も、岡野先生がわざわざ参加して下さり、お昼に中華料理を御馳走になった。この時にビールを飲んだのと混同しているのかもしれない。

大学の獣医学の課程が4年制から6年制に移行する時期に、学部4年を卒業した後、修士課程2年を修了(合計6年)して、獣医師国家試験の受験資格が得られる仕組みだった期間がある。私はその仕組みの最後の学年の学生であった。そのため、実際には昭和62年卒業、平成元年修士課程修了なのだが、現在は混乱を避けるためもあり、平成元年卒業扱いとなっている。私は、修士課程修了後、東京大学の博士後期課程(最後の3年制博士課程)に進学した。進学先に困っていた私に、岡野先生が当時東大獣医解剖学教室の教授であってあった西田隆雄先生を紹介して下さいました。西田先生と、その後を引き継いだ林良博先生のご指導と、研究に対する姿勢、哲学、そして数多くの先輩や後輩と切磋琢磨した事が、その後の私の学問のスタイルを形作った事は言うまでもない。岡野先生には、その筋道を作って下さった事もさることながら、私を外の世界に送り出してくれた事を誠に有難く、感謝している。

私が日本大学に在学中に、ローカルラジオ番組の収録のため、ラジオ局のスタッフが獣医解剖学研究室にインタビューに来た事があった。教授の岡野先生に対し「日本大学の獣医学科の特徴を教えてください」という質問に続き、「どのような学生を望みますか?」あるいは「学生にどのような獣医師になって欲しいですか?」と云う様な類の質問があった。先生はこれに対し「試験の上手なお利口ちゃんではなくて、応用の利く人間になって欲しい……」と云う様な答えをしていた。3回ぐらい取り直しがあったが、「試験の上手なお利口ちゃんではなくて……」と云う部分は3回とも言っていたので非常によく覚えている。当時は、真面目な岡野先生が、試験の成績が好い学生を好きではないのか?……と意外に感じたが、後にその様な浅い意味ではない事が分かった。思考を停止して丸暗記していれば、試験には強いが、初めて出会ったシチュエーションで応用が利かない。試験の成績だけでは人間は評価出来ないと云う意味だと思っている。考えてみると、運動部で柄が悪く、成績も(それほど悪くもないが)パツとしない私に目をかけてくれたのも、学生を成績だけで評価しないと云う先生の信念の表れだったのかも知れない。

私は(上述の通り平成元年卒「扱い」だが)、平成の30年間を丸々外で過ごし(東大で6年間、理研で24年間)、令和元年に獣医伝染病学研究室の教授を拝命し、日本大学に戻った。この30年間で、研究内容は抗ウイルス創薬へと変わり、大学で担当する講義も動物感染症学になった。動物感染症学は、家畜や伴侶動物の感染症を、とにかく凶鑑の様に講義していく科目で、国家試験のための暗記物の科目と捉えられる向きもある。その危惧のせい、私は講義に際して学生に「覚えて下さい」と云う言葉は好きではなく、出来れば使いたくない」と言っている。また、自分自身もちょっとした物知りだとは自負しているが、だからこそ「単なる物知りはダメだ」と、常に言っている。考えてみると、これは岡野先生の仰っていた「試験の上手なお利口ちゃん」はダメだと言っているのと同じ事だと気付く。思考を停止して丸暗記すると、試験は出来るが、応用の利かない……融通の利かない人間が出来上がって仕舞う。つまり私は岡野先生の信念に従った学生教育を、知らず知らずに行っていると云う事なのだ。岡野先生の訃報に触れ、この事を改めて認識した。これからは先生への恩返しのため、学生教育を全うする所存である。

# トピックス

## 令和6年秋 井上副会長「旭日雙光章」、令和7年春 鳥海会長「旭日小綬章」受章

事務局 岡林 堅 (平成13年卒)

永年に亘り獣医師として畜産の振興・公衆衛生の向上・動物福祉・愛護の啓発等に尽力された獣医師功勞により、井上亮一副会長(昭和50年卒)は令和6年秋に「旭日雙光章」、鳥海弘会長(昭和50年卒)は令和7年春に「旭日小綬章」を受章されました。



井上亮一先生の勲記と勲章



鳥海弘先生

## 第21回日本大学医療系同窓・校友学術講演会の開催

事務局 岡林 堅 (平成13年卒)

令和7年10月19日(日)13:30より、桜門会館大会議室において、第21回日本大学医療系同窓・校友学術講演会(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会)が開催されました。第11回から共通テーマを設けており、今回は薬学部が当番幹事となり「日大医療の最前線」をテーマにシンポジウム形式で実施しました。講演会の司会・進行は薬学部校友会の岸川幸生先生が担当し、薬学部校友会会長の澤田康裕先生によるご挨拶に続き、日本大学学長 大貫進一郎先生に来賓としてご挨拶を頂戴いたしました。角笛会からは、獣医生理学研究室教授、角笛会副会長の鯉江洋先生(平成2年卒)に「Zoobiquity(汎動物学)さまざまな動物の心臓病態生理学」と題して講演いただきました。講演後に開催する総合討論で自由な情報交換が行われました。講演会後の懇親会は、学部を超えた懇親の輪が広がっておりました。



来賓あいさつ：大貫学長



演者：鯉江先生



座長：中山先生

### ◎第21回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

日時：令和7年10月19日(日)13:30～

場所：桜門会館 大会議室

司会・進行

薬学部校友会 岸川幸生

開会の辞

当番幹事挨拶 澤田康裕(薬学部校友会会長)

来賓挨拶

大貫進一郎(日本大学 学長)

第一講演 薬学部同窓会

・救命の最前線で輝くチーム力～日大モデルが拓く未来～

演者：今井 徹(医学部附属板橋病院薬剤部 技術長補佐)

座長：林 宏行(薬学部薬物治療学研究室 教授)

第二講演 角笛会

・Zoobiquity(汎動物学)さまざまな動物の心臓病態生理学

演者：鯉江 洋(生物資源科学部 獣医学科 獣医生理学研究室 教授/角笛会 副会長)

座長：中山駿矢(生物資源科学部 獣医学科 獣医生理学研究室 助教)

第三講演 松戸歯学部同窓会

・“治す”医療から“創る”医療へ—臨床・再生医療・MBAの視座

演者：古賀陽子(東京女子医科大学医学部 歯科口腔外科学講座 口腔顎顔面外科学分野 教授・基幹分野長)

座長：釜崎直人(松戸歯学部同窓会 学術担当副会長)

第四講演 医学部同窓会

- ・日大心不全・地域連携ネットワーク~Fantastic4、人工心臓、そして介護まで~

演者：瀬在 明(医学部心臓血管学分野 准教授)

座長：秦 光賢(松戸歯学部付属病院心臓血管外科 教授 /医学部同窓会 渉外担当理事)

第五講演 歯学部同窓会

- ・「食べる」を科学する~新時代を創造する歯科の取り組み~

演者：米永一理(歯学部摂食機能療法学講座 教授)

座長：岩崎圭祐(歯学部同窓会 学術委員会委員長)

総合討論

座長 大場延浩(薬学部薬剤疫学研究室 教授/薬学部校友会 幹事)

閉会

挨拶 吉澤明孝(次回当番学部 医学部同窓会会長)

懇親会

司会・進行 岸川幸生(薬学部校友会幹事)

令和6年度 角笛会支部総会・他学科分科会の活動状況と派遣者一覧

R6年7月13日(土)	学部校友会総会懇親会	鳥海 弘 上野 秀 関根 武 山田 智 渋谷 英 中谷 林 壁谷 庭 岡林 獵 木	弘道子 喜久宏 則堅達	12月12日(木)	神奈川県支部(藤沢市)	丸山 総 渋谷 吉 山江 琢 鯉藤 一 伊村 林 枝岡 後 岡越 谷 中屋 征 山 祐 二 中 駿	一久樹 洋也 弥堅 介 二郎 矢
7月28日(日)	新潟県支部(新潟市)	渋谷 久		R7年1月24日(金)	角笛会同窓会(仙台市)	鳥海 弘 上野 亮 酒井 健 丸山 敏 巨山 智 中江 敏 鯉江 智 枝村 一 岡林 一	弘一道 夫一 広宏 洋一 弥堅
7月28日(日)	栃木県支部(宇都宮市)	鯉江 洋					
8月17日(土)	北海道支部(帯広市)	大滝 忠					
8月31日(土)	北海道支部(札幌市)	岡林 堅					
9月7日(土)	熊本県支部(熊本市)	北川 勝					
10月12日(土)	岩手県支部(盛岡市)	丸山 総					
11月2日(土)	南信州支部(飯田市)	鯉江 洋					
11月9日(土)	福岡県支部(福岡市)	岡林 堅					
11月23日(土)	埼玉県支部(さいたま市)	鎌田 寛					
11月30日(土)	紫友会70周年(本部)	鳥海 弘 井上 亮					
11月30日(土)	岐阜県支部(岐阜市)	安井 禎					
				2月15日(土)	山形県支部(山形市)	岡林 堅	
				3月2日(日)	群馬県支部(高崎市)	渋谷 久	
				3月16日(日)	静岡県支部(静岡市)	小川 健 司	

(敬称略)

令和7年度 角笛会支部総会・他学科分科会の活動状況と派遣者一覧

令和7年度も昨年と同様に各支部へ教員を派遣しております(令和7年10月1日現在)。教員の派遣を希望される支部は事務局までご一報ください。

R7年7月12日(土)	学部校友会総会懇親会	鳥海 弘 関根 秀 鯉江 洋 渋谷 智 中谷 英 壁谷 林 岡林 庭	弘道子 洋久宏 則堅達	9月3日(水)	宮崎県支部(宮崎市)	大小 忠 伊藤 健 巨藤 琢 壁谷 敏 枝村 英 住吉 一 岡林 俊 成田 貴 越谷 裕 佐藤 真 木庭 真 日向 獵 日谷 綾 中関 浩 山口 由 口 尚 学	利司也 広則 弥亮 堅則 介伍 達子 輝矢 希
7月27日(日)	新潟県支部(新潟市)	堀北 哲	也	9月6日(土)	熊本県支部(熊本市)	坂井 学	
8月16日(土)	北海道支部(釧路市)	大野 真	美子				
8月23日(土)	北海道支部(札幌市)	森友 忠	昭				
8月24日(日)	石川県支部(金沢市)	鯉江 洋					
9月3日(水)	宮崎県支部(宮崎市)	丸山 総 遠矢 幸 渋谷 伸 堀谷 久 北哲 也					

(敬称略)

### 角笛会同窓会(仙台)

事務局 岡林 堅 (平成13年卒)

第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会(令和6年度)(令和7年1月24~26日)が仙台国際センター(宮城県仙台市)にて開催されたのに合わせ、令和7年1月24日(金)18:30から江陽グランドホテル(宮城県仙台市)「白鳥の間」にて、角笛会同窓会(仙台)が開催されました。教員7名(酒井健夫先生、丸山総一先生、亘敏広先生、中山智宏先生、鯉江洋先生、枝村一弥先生、岡林堅)、年次大会で発表した大学院獣医学研究科1年塩澤仁先生など、北海道から熊本県まで全国から30名を超える参加者がありました。

司会は角笛会事務局長の岡林が担当し、角笛会会長の鳥海弘先生(昭和50年卒)による開会挨拶に始まり、日本大学名誉教授・元総長・前学長の酒井健夫先生(昭和41年卒)に乾杯のご発声を頂戴しました。会の中で、日本大学動物病院長の枝村一弥先生(平成11年卒)から動物病院および獣医学科の近況および将来構想についてご報告いただきました。その後、世界獣医師会次期会長、日本獣医師会会長、角笛会福岡県支部長の藏内勇夫先生(昭和54年卒)にご挨拶いただきました。また、翌日が誕生日の鳥海先生にお祝いとしてバカラのグラスを贈呈しました。会の終盤には、生物資源科学部前学部長の丸山総一先生(昭和57年卒)、獣医保健看護学科主任の中山智宏先生、日本獣医師会専務理事の伏見啓二先生(昭和62年卒)からお話を頂戴しました。最後に、角笛会宮城県支部長の首藤健一先生(昭和45年卒)に閉会の挨拶を頂戴し、盛会裏のうちに閉会となりました。今回の同窓会では、宮城県在住の卒業生に多くのご尽力をいただきました。心から感謝いたします。



鳥海弘会長



酒井健夫先生



枝村一弥先生



藏内勇夫先生



鳥海弘先生誕生日祝(戸田純子先生)

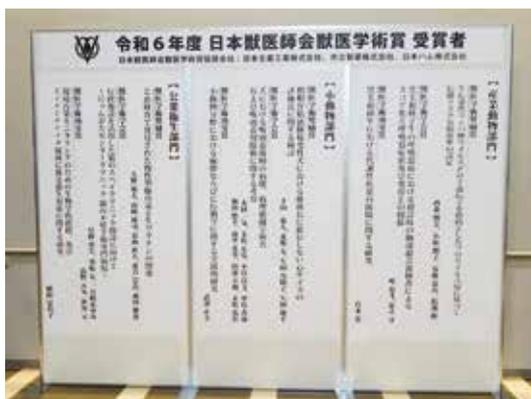


首藤健一先生

多くの皆様にご参加いただき、16,498円の残金が生じました。残金について、全額、角笛会に寄付しました。

年次大会では、令和6年度日本獣医師会獣医学術賞の[小動物部門]獣医学術奨励賞を才田祐人先生(平成17年卒)、[公衆衛生部門]獣医学術学会賞を星野勇矢先生(平成22年卒)が受賞するなど、本学獣医学科卒業生の活躍が多くありました。

年次大会では、令和6年度日本獣医師会獣医学術賞の[小動物部門]獣医学術奨励賞を才田祐人先生(平成17年卒)、[公衆衛生部門]獣医学術学会賞を星野勇矢先生(平成22年卒)が受賞するなど、本学獣医学科卒業生の活躍が多くありました。



令和6年度日本獣医師会獣医学術賞 受賞者



年次大会会場内日本大学ブース



才田祐人先生(平成17年卒)と佐藤れえ子先生(日本小動物  
獣医師会会長)



丸山総一先生(日本獣医公衆衛生学会会長)と星野勇矢先生  
(平成22年卒)



日本大学 獣医学科 校友会

## 角笛会同窓会 in 仙台

日時：2025年 **1月24日(金) 18:30~**

会場：**江陽グランドホテル**

**3階「白鳥の間」**

宮城県仙台市青葉区本町二丁目3-1  
TEL：022-267-5111 (代)

会費：**10,000円**

当日、会場にてお支払いください。

申込：参加を希望する方は、**1月14日(火)までに**  
下記アドレスのフォームに入力するか、または  
岡林(角笛会事務局)まで氏名・卒業年を  
ご連絡ください。

参加申込はこちら



<https://forms.gle/dd5r17L5UaZU432B8>

**角笛会事務局**

事務局長 岡林堅 (獣医化学研究室)

mail : okabayashi.ken@nihon-u.ac.jp

TEL & FAX : 0466-84-3634



集合写真

## 角笛会関連記事(支部だより)

### ■福岡県支部だより

令和6年11月9日(土)、「福岡県中小企業振興センター」にて開催。

派遣教員：岡林 堅



### ■埼玉県支部だより

令和6年11月23日(土・祝)、「埼玉会館」にて開催。

派遣教員：鎌田 寛



### ■岐阜県支部だより

令和6年11月30日(土)、「うを義」にて開催。

派遣教員：安井 禎



■山形県支部だより

令和7年2月15日(土)、「株式会社中島商店」にて開催。  
派遣教員：岡林 堅



■群馬県支部だより

令和7年3月2日(日)、「メトロポリタン高崎」にて開催。

派遣教員：渋谷 久

令和7年3月2日に、角笛会群馬県支部総会・記念講演会と懇親会がメトロポリタン高崎で開催され、昭和44年から令和2年の卒業生まで29名の支部会員が参集しました。



全員で校歌斉唱

総会は原案どおり可決承認され、当日は大学から獣医病理学研究室の渋谷久教授にお越しいただき、ご祝辞を賜るとともに、総会終了後に「動物の遺伝性疾患」「獣医学科の近況」についての記念講演をしていただきました。

講演会終了後は懇親会に移り、湊和之さんと毒島支部長との絶妙な進行により、たいへん和やかな雰囲気となり、懇親・交流を深めることができました。

最後は参加者全員で校歌斉唱、恒例の伊藤昌司さんによる日大節でたいへん盛り上がりしました。

来年も多くの参加者を期待するとともに、当支部の発展を期したいと思います。



いつまでもパワフルです。(S44卒2人組)



伊藤会員による日大節

(支部長：毒島美登里)



■ 静岡県支部だより

令和7年3月16日(日)、「グランドホテル中島屋」にて開催。

派遣教員：小川健司

トランプ2.0が世界を席捲しており、アメリカさえ良ければOKという姿勢は、いただけません。良きアメリカが機能する事を祈っています。わが国では、主食のコメの高騰への対応遅れをそっちのけで、商品券を配った等、次元の低い応酬の委員会にがっかりです。国家100年の行く末を議論する国会であってほしいと思います。



去る3月16日に静岡のグランドホテル中島屋で、日本大学獣医学科獣医伝染病学研究室教授の小川健司先生をお迎えし、総会と講演会及び懇親会を開催いたしました。総会議案については原案どおり承認されました。

小川先生からは、最近の学生は犬派より猫派が多いことや動物病院(ANMEC)は、設備スタッフともに大変充実しており、アメリカ動物病院協会の国際認証(北米外にある大学附属動物病院としては初認証)の報告や、学生への国家試験対応や講義内容への悩みなどをお聞きしました。講演は「コロナウイルスとワクチン」についてお話いただきました



が、mRNAワクチンは乗り越えなければ壁が多く、偶然も重なってきたワクチンである。陰謀論などエビデンスに関わらないことなど悩ましいことが多い。最近チングニアウイルスに注目している、ヤブカ属に刺されることで感染し急性熱性疾患の症状を呈する。初めて耳にするウイルスで今後注目していきたいと感じたり大変興味深い講演でした。

講演会終了後、安蔵先生の乾杯で懇親会に移り、久しぶりの再会に和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。

新規入会者は、いつであったか思い出せなくなりました。コロナがあり止むを得ない状況かと思いますが、積極的に加入への声掛けをお願いいたします。

411-0031 静岡県三島市幸原町1-6-48 大庭芳和

TEL&FAX 055-986-8031 E-mail アドレス y.ohba2326@sea.plala.or.jp

会費納入がまだの方は、是非納入をお願いいたします。郵便振替口座記号番号 00850-4-41870

■ 新潟県支部だより

令和7年7月27日(日)、「万代シルバーホテル」にて開催。

派遣教員：堀北哲也



## ■ 東北海道支部だより

令和7年8月16日(土)、「まなぼと幣舞」にて開催。

派遣教員：大野真美子



## ■ 石川県支部だより

令和7年8月24日(日)、「ホテル日航金沢」にて開催。

派遣教員：鯉江 洋

コロナ禍の影響もあり、長らく当支部の活動が実施できずにおりましたが、本年ようやく活動を再開することができました。日頃より、角笛会本部、そして当会皆様方のご支援およびご協力に心より感謝申し上げます。

今年は、久方ぶりに、1名の新会員を迎え入れることができ、現在、本会の会員数は、35名となりました。8月24日、ホテル日航金沢において令和7年度の本会総会を開催し、総会17名および懇親会18名と、多数の先生方にご出席頂き、盛大に執り行うことができました。

総会後の研修会では、日本大学獣医生理学研究室の鯉江洋教授をお招きし、昨今の本学獣医学科の状況や、ご専門分野である循環器疾患の中から僧帽弁閉鎖不全症の心エコーについてご講演頂きました。

我ら母校の生物資源科学部ですが、畜産学科が廃止となり、獣医保健学科が誕生するなど、学科構成も変化してきているそうです。現在の獣医学科は、女子6割および男子4割といった人数構成のようですが、学生の雰囲気も我々が在学中の頃とはかなり変化してきたようで、個人的には教員と学生の絆がやや希薄になってきたような印象も受けました。一方、国際化の流れにより、東南アジアを中心に、留学生も増えてきたそうです。驚いたのは、彼らが一般入試、つまり日本人と同じ試験を受けて、それを突破し、入学してきている学生が少なからずいらっしゃるということです。特に、台湾では日大の人気があるそうです。

総会および研修会後の懇親会では、普段、なかなかお目にかかることができない諸先輩方と様々な情報交換をすることができ、とても有意義な時間でした。

また、各方面でご活躍されている先生方がたくさんおられ、とても嬉しく思いました。また、来年以降も、活動を継続していきたいと思っております！

事務局長 才田祐人



石川県支部会員と鯉江洋先生(下段左から3番目)

(事務局長：才田祐人)

■宮崎県支部だより

令和7年9月3日(水)、「和食の橘」にて開催。

参加教員：教員20名

第168回日本獣医学会学術集会がシーガイア・コンベンションセンター(宮崎県宮崎市)で開催されるのに合わせ、9月3日(水)に宮崎県支部総会および懇親会を開催しました。懇親会への教員および学生の招待について本部事務局と相談し、令和7年度角笛会総会にて承認され、大学から教員、学生を招待することができました。

懇親会には、大学から教員20名、学生など17名が参加し、宮崎県支部会員22名と合わせて59名の参加となりました。懇親会は、事務局長の岐本の進行により、支部長の安藤忠弘先生(昭和54年卒)の挨拶に始まり、来賓代表として渋谷久先生(昭和61年卒、獣医学科主任)に乾杯のご挨拶をいただきました。

懇親会の中で、丸山総一先生(昭和57年卒、獣医公衆衛生学研究室 特任教授)が日本獣医学会において「越智賞」を受賞されるとのことで、花束贈呈を行いました。

また、参加された先生方からご挨拶と研究室についてお聞きし、大学の近況を知ることができました。支部会員と教員、学生が懇談する中で、学生時代の懐かしい話や宮崎県の状況をお伝えし、大学の近況などをお聞きしました。教員と同級生だった方や、久々に恩師に再会した方などもおり、話が尽きることなく、園田勝美先生(昭和53年卒)の一丁締めで、盛会裡に終えることができました。



安藤支部長



渋谷先生



丸山先生への花束贈呈



園田先生



事務局長 岐本博紀

■熊本県支部だより

令和7年9月6日(土)、「メルパルク熊本」にて開催。

派遣教員：坂井 学



## 角笛会関連記事(同期会だより)

### ■塞翁会(昭和41年卒)同期会 開催報告

山村穂積(昭和41年卒)

2024年10月23日に第26回塞翁会in熱海(熱海ニューフジヤホテル)が開催されました。

コロナ禍により延期、中止されていた塞翁会を2023年10月23日に平松計久前会長、そして佐藤浩担当幹事のお骨折りにより第25回塞翁会in浜松が開催されました。会員からの意見で『できるだけ続けたい』との要望から、新会長山村穂積のもと、幹事山崎良太郎、会計奥村光弘で第26回塞翁会を担当いたしました。

老化してきた私たちの「老人の幸せの一つに、老化を加速させないこと」が大切です。足腰が思うように動かないなど生理的機能の衰退などの理由で参加を断念する会員もおります。また、毎年のように塞翁会名簿から削除されている名前もありますが、名前が削除されても塞翁会にご夫婦で参加されていた会員では奥様方とのお付き合いという絆も出てきていることは塞翁会があつたのことと思います。

塞翁会も塞翁の意味する「辺境の塞のほとりに住む老人」に皆なりました。今まで継続する中で一度も塞翁会としての会費を集めずこれまで続けてこられたとは会員皆様のご多大なるご協力により成り立ってきました。

今回の第26回の参加者は減っているものの話が弾み楽しい一夜をすごしました。毎回出席していた会員も、本人の体の事情、家族の事情など多くの事情でやむなく欠席となった会員も多々おります。しかし今後も継続を願い、また次回に向けて心身共に健康で歳を重ねられますようにお祈りしています。



### ■昭和49年卒クラス会 開催報告

津曲茂久(昭和49年卒)

獣医学科昭和49年卒クラス会が令和6年10月26日(土)18時からオリエンタルホテル福岡博多ステーションホテルで開催された。今回のクラス会は住田規雄さんと原幸さんの2人の幹事役で開催され、参加者は22名であった。開会の挨拶において令和6年で獣医学科卒業後50年になることが発表された。乾杯の後、懇親会に入り、1時間ほど掛けて、各人から現在の仕事や日常生活の近況報告がなされた。次回の開催は令和7年11月に京都市内で開催することが提案され了承された。最後に集合写真を撮影してお開きになった。一次会終了後はそれぞれのグループに分かれ博多の街に繰り出しました。



### ■ろっばん会(昭和53年卒)開催報告

高橋 学(昭和53年卒)

昭和53年3月獣医学科卒業の6班のクラス会(ろっばん会)が、令和6年10月6日～7日岩手県盛岡市で開催されました。ろっばん会は毎年開催され全国各地の同級生が幹事を務めて開催されています。

昨年のろっばん会は、長崎県で開催され宴会の席で、世界で行ってみたい都市「盛岡市」が話題となり今年度岩手在住の私が幹事役を仰せつかりました。

クラス75名中、連絡がつく方52名、返信あり47名、出席者は24名の同級生及び家族の方々が盛岡に集合しました。

当日は、盛岡市内散策①盛岡跡城公園、②もりおか歴史文化館、③もりおか啄木・賢治青春館、④岩手銀行赤レンガ館と散策しホテルで宴会を行いました。

卒業から47年それなりに年を重ねているようで、すぐ分かる顔、中々思い出すのに時間がかかる人等々でしたが、いっぱい飲み交わすと直ぐに思い出される面々でした。夜も更け宴会ホール担当から時間ですよの掛け声を2度ほどかけてもらい1次会はお開きとなりましたが、2次会の掛け声で市内に繰り出して延々と飲んで歌って騒ぎました。この年になって皆元気だなどの思いと、弾けんばかりの笑顔が印象に残った一時でした。

来年は、福島県郡山市付近での開催予定、楽しみです。

追伸 10月12日、角笛会岩手県支部総会が盛岡市内で開催され、丸山先生にご出席いただきました。ありがとうございました。先生のご指導で、クラス会の報告ができることとなりました。

### ■進勇会(昭和45年卒)開催報告

令和6年10月吉日

能登半島は、元旦に大きな地震に襲われ、復興の矢先に避難所にも住めなくなるような豪雨災害とダブルパンチでした。能登や富山県氷見市に同窓が居り、家屋などに被害があったようですが、幸いに怪我もなくお元気でした。

さて、今年の進勇会は、現地幹事河野俊隆君のお世話で、京都市太秦の「菊香荘」で開催いたしました。総勢15名の参加でした。

京料理に、河野君差入れの甕紹興酒を苦勞して開け、また安藤光一君からの久保田萬壽に舌鼓をうち、互いの近況や報告など、和気藹藹と楽しい一時を過ごしました。

別室での二次会は、地域の催事(お祭りや町内会活動など)について、約2名が中心となり、時間を忘れて大激論となり、結論は、持ち越しとなりました。

翌日は、東映太秦映画村に入村し、時代劇撮影現場の建物や街並みの見学と、忍者の迫力あるショーを堪能しました。

相変わらずロシアとウクライナは、泥沼状態で、又、イスラエルとハマスの戦闘は、中東全体を巻き込む様相で毎日一般市民の犠牲者が出ています。一日も早い平和を願わずにおられません。国内の政治状況も不安定で、この報告書が届くころ、まだ政権も判明しておりませんが、新たな政権には我が国の将来を見据えたしっかりと舵取りを切に願っております。

来年は、名古屋で開催いたします。多数の参加をお願いいたします。





名簿管理及び連絡係 411-0031 静岡県三島市幸原町1-6-48 大庭芳和・治美  
 TEL&FAX 055-986-8031 E-mail アドレス y.ohba2326@sea.plala.or.jp  
 携帯 090-5858-2005 メール ohbahana2005@docomo.ne.jp

### ■平成2年卒クラス会開催報告

鯉江 洋(平成2年卒)

1990年3月に卒業してから35年が経過しました。我々も現役入学者は今年で還暦を迎える歳となりました。公務員であれば定年退職をする人もますます、キリも良いので私が勝手に音頭を取って同期会を開催することとしました。卒業してから2回目の開催です。第1回目は全員に連絡をして本格的に実施しましたが、今回はLINEでつながっている同期のみへの連絡としました。ここで改めて連絡が行かなかった同期生にお詫びを申し上げます。人生も後期に突入し、無理をして準備をする元気がありませんでした。どうぞお許してください。

ほとんどの同期が同じだと思うのですが、人生のピークである「夏期」を過ぎ、いまは「秋期」と真ん中にさしかかっている状態だと思います。これから迎える「冬期」のために、無理をせず今までの人生を振り返りながらかみしめるように生きてゆこうとしている人が多いと思います。そんなときに、昔の友に会って話をしたくなるのは普通だと思います。

あと何回会えるか分かりませんが、小規模に毎年でも開催してゆきたいと思っています。今回連絡が届かなかった皆様へお願いします。私の大学メールアドレス宛に連絡をください(koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp)。同期のグループLINEに招待いたします。

なお同期会で余剰した会費は、参加者の意見で角笛会へ寄贈いたしました。また会いましょう。



## ■ 昭和43年卒クラス会

令和7年9月20日(土)、「日本大学生物資源科学部 食堂オリビア」にて開催。

佐藤彰一郎



### 事務局よりお願い

「支部だより」「同期会だより」を充実させるため、総会・懇親会で撮影した写真と文章をお送りください。各支部の様子を写真付きで紹介させていただきます。ご協力のほどよろしくお願ひします。

支部総会に現役教員を派遣します。ご要望がありましたら、事務局までご相談ください。

## 角笛会関連記事 (校友だより)

### ■ 徳川幕府の「御触書」にみる疫病対策

青木蓉治 (昭和36年卒)

#### 1: 「温故知新」が編纂のきっかけ

孔子と高弟の言行を、孔子の死後に弟子が記録した書物「論語」に「温故而知新、可以為師矣」(故きを温ねて新しきを知らば以て師となるべし)の記述があります。

人は、他の動物と異なり、旧世代より今日に至る歴史のなかで感染症に対して、どのように立ち向かい生きてきたのか、これまでの多くの事例を参考にして、いま生じている事例解決の参考にする例を多く実例や、資料で見受けます。

例えば、284年続いた徳川幕府治世の江戸時代の人々は、疫病(感染症)から、どのように命を衛、生きてきたのか。現感染症の流行時の対処方法と、江戸幕府の対処方法が、あまりにも類似していることに、改めて江戸幕府行政マンや医者に尊敬を編纂で感じています。

今日、気候温暖で季節活動の場を広げるヒトスジシマカ(ヤブ蚊)やダニ・ノミ・コウモリ、北極圏の永久凍土に潜む太古の病原微生物(炭疽菌)など、未知の感染症発生に際して、獣医学のヒト・動物・環境の衛生に関わる者が、連携して取り組むOne Health(ワンヘルス)の知識が強く求められていると認識しています。

2025年6月13日日経新聞報道で、三重県の獣医師がネコ治療後、マダニが媒介する「重症性熱性血小板減少症候群」に感染し死亡と、日本獣医師会は、獣医師に感染予防でゴーグル・ガウン・手袋の装着を徹底するよう注意喚起した旨の記事が掲載されています。

過年、雑草が繁茂する河川敷を飼育犬と散歩中にズボンにマダニが飛びつき、犬の脛・内腿にダニ吸血の思い出があります。

本書編纂資料は所有「御触書」の「寛保集成」・「徳川時代警察沿革誌・寶歴集成・天明集成・天保集成」の「疱瘡麻疹水痘等之部」を引用しています。

#### 2: 仏教伝来で疫病(感染症)が蔓延と祭礼(概要)

海に囲まれた島国の我国に疫病が侵入は、仏教の伝来によると、『日本書紀』の記述で538年?552年? 百濟(朝鮮国)

聖明王の使者が欣明天皇に仏像や経典を献上した時期に、これまで知られていなかった疫病(天然痘・麻疹)が侵入したと、香月牛山の『国字医叢』に記されています。

疫病「えやみ」「えのやまい」流行は、1607年から1811年まで約200年間に12回、朝鮮国通信使節団が高官や画家、楽団員を含む総勢500人の一行が、朝鮮釜山港から北九州対馬▶壱岐より瀬戸内海を経て大阪に到達し、東海道を通って江戸に至る間、各地の宿泊地で住民は使節団員を歓迎接待しています。そこで住民は疫病に感染し、疫病は短期間で北海道アイヌ民族までも感染しています。

この朝鮮国通信使節団と同様に、1429年から1879年まで、琉球大国は明(清)中国の文化を取り入れた独自の琉球文化形成の独立国でしたが、1609年に薩摩藩の武力侵攻を受けて以降、薩摩(鹿児島県)の支配を受けていますが、当時の鎖国下においても琉球国は、諸外国との交易を続け、琉球使節は定期的に江戸幕府に、中国文化を土産に参府する途上で、住民は使節接待で麻疹に感染しています。

住民は疫病回復を神仏祈願や呪術的行為で病から逃れるなかで、平安時代に宮中医官を務めた鍼博士「丹波康頼の医心方」の漢方医は治療を行っています。

なお麻疹は、中国由来の呼称で、発疹が麻の実のように見えることで名付けられ、史書で「波志賀(はしか)」の当て字と「2度なし病」ともいわれ、一度感染すると二度は感染しない病の意味です。麻疹は、江戸時代に13回流行し、1862年(文久2)に江戸で7万人(各寺の神社奉行報告で24万人)死亡があります。

我が国、麻しん過去推移は、平成19・20年に10~20代を中心に大きな流行がみられましたが、平成20年より5年間、中学1年相当、高校3年の年代に2回目の麻しんワクチン接種を受ける機会を設けられたので、平成21年以降10~20代の患者数は激減しています。一方2025年米国トランプ大統領方針の一環で、大幅な財政支出削減が進められ、各州の保健当局が感染症の対応に使ってきた助成金が打ち切られ、テキサス州では麻疹対策に影響が出ています。更に「麻疹ワクチン接種で子供の自閉症原因」となる誤報を背景に感染が拡大しているようです。

### 3：御触書に見る江戸時代の疫病対策

西暦931年~938年(承平年間)に、勤子内親王の求めで源順(みなもとのしたごう)編纂の「倭名類聚抄=わみょうるいじゅうしょう」の辞書「疾病部」に、疫病「民が皆病むなり」原因は、超自然的な荒振る神・疫神(疫病神)・疫鬼・怨霊の仕業とか仏罰・神罰による考え方が一般的で、疫病の終息の願う加持祈祷や各種祭礼(鎮花祭・道饗祭・四角四境祭・鬼気祭・疫神祭・御霊会など)風習は、平安時代から現在に至っても各地で祭事がみられます。

江戸時代の町民は、治療薬も、ワクチンない、病の治療は神仏祈願や疫病封じのまじない方法に頼っていましたが、幕府は、再三流行する「痘瘡・麻疹・水痘」より将軍を護るために、幕臣に対して「御触れ」で、罹患した場合は登城を35日間「遠慮=自粛」の指示をしていますが、歴代15人中14人の将軍が罹患しています。8歳死亡の7代家継は罹患していません。

5代将軍綱吉の治世1680~1709年の元禄時代は、町人や商人・職人の経済力の向上を背景に開花した、歌舞伎芝居や伊原西鶴・近松門左衛門の文学、松尾芭蕉の俳諧、浮世絵の菱川師宣尾、装飾画を描く尾形光琳が活躍する都市文化「元禄文化」が誕生していますが、しかし、町民は痘瘡(天然痘)・麻疹・水痘症の蔓延で苦しんでいます。

特に、1649年(慶安2)3代将軍徳川家光の治世下の江戸では麻疹流行で多数が死亡し、翌年の1650年10月4日(慶安3)は痘瘡・藪いも(水痘瘡)の蔓延で、人々は痘瘡に感染すると、家の神棚に「痘瘡之神」と供物を備え病の完治と病を免れる祀りを行っています。

一方、将軍家は感染抑止策として、将軍に面接可能な幕臣大名・旗本・御家人に「痘瘡麻疹藪いも遠慮之覚」発症したら仕事をしっかり休め、と「痘瘡相煩候看病人、御目見え不仕事」を命じていますが、8代将軍徳川吉宗(1741)から10代徳川家治(1764)までの20年間で痘瘡は11回も流行し、感染予防の御触れの効果はみられません。「藪いも：主に顔面の毛包に化膿菌により米半粒大の癬が数個以上できる(癬腫症)：家庭の医学出典」

なお御触れの内容は、下記のとおりです。

- \*：自宅内で居住する孫や子、親類が痘瘡や藪いもに罹ったときは、「3度湯かけ」のち御番医師に届けでること。
- \*：自分が痘瘡に罹ったときは、症状が出た日から75日過ぎてから御番医師に届けでること。なお将軍に御目見えの者は75日経過してからとする。
- \*：痘瘡の看病人は、症状が出た日から50日は将軍への御目見えは禁止する。
- \*：麻疹藪いもの看病人は、症状が出た日から35日は将軍への御目見えは禁止する。御供番の者も同様とする。

### 4：幕府から関係部署に伝達書(規制)の疫病対策(漢文教科を思い出し判読を)

幕府将軍職は徳川家が世襲制で就き、その下に全国約300藩主で政権を構成し、将軍は支配と規制(法度)を必要に応じてお触れで、「万事江戸之法度の如く、国々所々に於いて之を遵行すべし」と、各藩で遵守するように示していますが、しかし、各藩は基本的には幕府の支配外の自治行政であるため、御触れを倣う例もあれば、無視する例もあり、藩主が独自の規制(触れ)を出してもいます。

幕府将軍が関係部署に発行する伝達書(規制)は、その都度、事例に併せ前例踏襲で文書を作成していましたが、8代将軍吉宗の時代に、老中・町奉行・神社奉行・勘定奉行で構成された評定所で過去の「御触書」を集めて「寛保集成」と名付け、この文例集を基にして指示しています。これより以降、「寶歴集成」、「天明集成」、「天保集成」の時代通知集を作成し、幕末まで引用してお触れ書を発令しています。

\*：「(寛保四年正月)より年(寶曆4年正月迄)1792年(8代徳川吉宗)～1754年代の御触書、痘瘡はやり候ニ付、陰陽二血丸可被下候間、御目見以上之面々望之者有候は、元文五申年之通、栗本端見迄相願、拝領可仕候、尤出合候ハ、於、御城、端見之申達、頂戴致し候とも可仕候

\*：「延享四年三月」1744年～1748年(9代徳川家重)代の御触書  
五節句月次出仕之節、痘瘡麻疹水痘病人有之面々、先達て相觸候通、御本丸、西丸之可被致し出仕事ニ候、尤出仕候て大目付被承合、大納言様 出御遊候ハ、御目見可差扣候、右之段先達ても相達候得共、心得違候て、被伺候面々も有之候付、申達候、右之通、寄々可被達候、且亦何も被心得、當日承合候面々も候は、可挨拶候、

(参考)「大目付の役職は、幕府を守る監察官の役割を担い、大名・高家・朝廷の謀反を監視する為、1632年(寛永9年12月17日)付けで秋山正重・水野 守信・柳生宗矩・井上政重の4名が任じられたのが始まり」

\*：「寛延三年正月」1744年～1748年(9代徳川家重より「大目付」に対しての御触書)  
痘瘡麻疹水痘看病人は、大納言様御座所御番等相勤候儀且又御表 出御之節 御目通え罷出儀、三番湯掛候迄ハ、唯今迄差和候得共、向 後不及共候儀、  
一 向後痘瘡麻疹水痘病人、當人より献上物之儀無構差上可申候、  
一 右之外 大納言様御座所遠慮之儀ハ、元文二年相觸候通官可被心得候、右之通、相觸候、正月  
「参考；三番湯とは、痘瘡蔓延の初期発症の児童が完治して最初に入浴する「一番湯」最後に完治した児童の入浴「三番湯」と称す

\*：「寶曆二年年十一月」1752年(9代徳川家重)代の御触書  
大納言様御痘瘡 被遊候付、西丸え為何御機嫌、明十四日惣出仕之事  
一 御本丸えも御様體御輕恐悦之旨にて、西丸仕之廻、可有登場城事、  
一 病氣幼少井在江戸隠居之面々は、月番老中、但馬守え使者可差越事、  
一 在國在邑之面々十万石以上は、使札可差越事、其外は飛札可被差越事、  
一 在國在邑之隠居よりも、飛札可被差越事、  
一 明十四日より御酒湯被爲 召候迄は、毎日但馬守迄使者可被差越事右之通、相觸候、尤御目付え可被達候 「十一月」

\*：「寶曆二年年十一月」記載略

\*：「寶曆二年年十一月」記載略

\*：「寶曆二年年十一月」1752年(9代徳川家重の長男、大納言様 家治は江戸城 西ノ丸にて誕生。痘瘡完治の祝い)御触書大納言様御酒湯爲 召候爲御祝儀、明廿五御本丸之惣出仕 夫より西丸え登 城可有之候 尤熨斗目半袴可爲着用候、但、病氣幼少隠居之面々は、月番老中、但馬守宅え、以使者御祝儀可申上候

「参考；酒湯(ささゆ)とは、児童の痘瘡が完治したときに酒を混ぜた湯、または酒を混ぜた湯で入浴」

「参考；他說；米のとぎ汁に酒を混ぜ、赤手ぬぐいに浸して体を拭くとも、笹の枝葉を浸して体にふりかけるともいう」

「参考；『大納言様』とは、將軍世子で官職の一つで、現代の政府国務大臣に相当する職、將軍就任前に臣下から『大納言様』と呼ばれるのが通例」

「参考；1747年(延享4)但馬守(山形藩主)老中職で、2万5,000石以上の譜代名から任用され、複数名が月番制で政務を執り、筆頭者(老中首座)は事実上の執政として幕政を主導しています。」

\*：「寶曆四年正月」1754年(徳川家治)代の御触書  
麻疹水痘病人大納言様御座所御番相勤候儀、且又御表 出御之節 御目通え罷出候儀、三番湯掛り候迄は差扣候得共、向後不及其儀候、  
一 御醫師も右病家え見廻療治仕候者、當日は 御目見致遠慮候得共、向後是又不及其儀候右之通、可被相觸候、正月

##### 5：江戸町民に対する町奉行公布の触書(町奉行＝東京都知事・警察長官・最高裁判所長官を兼務)

町触書は次のように「町奉行～町年寄り(奉行の支配を受ける町年寄で町役人の上席～(町内会長・自治会長)・月行事～家主～店子)伝達されています。

なお、家主は貸家の持ち主で店子は長屋の住人、月行事は町内の組長・班に該当します。幕府が重要とする江戸町民に対する町触れのうち「大高札」は日本橋南詰(現存しています)・常盤橋門外・筋違橋門内・麴町半蔵門外・芝車町の六か所に雨覆いの屋根に「キリシタン禁令と密告者に報奨金」「火付けの密告に報奨金」「人馬賃金の定書」「道中人馬荷物物の定書」「親子兄弟札等の制札」「住む家や服装」など細部の規制を次のように常時掲示していました。

西暦1711年5月(9代徳川家重)一例を掲示の触書抜粋定

一、親子兄弟夫婦を始め諸親類に親しく、下人等に至る迄、是をあわれむへし、主人ある輩は各其奉公に精を出すへき事

- 一、家業を専にし、怠る事なく、万事其分限に不可過事
  - 一、偽を為し又は無理をいひ、惣じて人の害になるへき事をなすへからさる事
  - 一、博徒之類一切に禁制之事
  - 一、喧嘩口論慎み、若其事ある時は猥に出合へからず、手負いたる者隠し置へからさる事
  - 一、鉄炮猥に打へからず、若違犯の者あらば申出へし、隠置他所よりあらわるに於ては、其罪重かるへき事
  - 一、死罪に行ゆる者有時、馳集まるへからさる事
  - 一、盜賊・悪党の類あらば申出へし、急度御褒美可被下事
  - 一、人身売買かたく停止す、但男女の下人、或は永年、或は譜代に召置事は相對可任事附 譜代の下人又は其所に往来輩他所に罷越、妻子をも持、有付候もの呼返すへからず、但、罪科有ものは制外の事右條、可相守之、若於相背き可被行罪科もの也
- 正徳元年五月日 奉行

## 6：なぜ天明飢饉で疫病が発生したのか

1783年(天明3)10代將軍家治の治世に発生した、有名な三大飢饉は「享保の大飢饉」「天明の大飢饉」「天保の大飢饉」のうち、特に90万人以上の餓死者を出した東北地方の「天明の大飢饉」は、1782年(天明2)から1788年(天明8)まで続き、三大飢饉の中で最も被害が大きく、「天明の大飢饉」の原因は、天明2年は雨が長く悪天候が続き、更に天明3年は異常低温による大冷夏で、8月に冬物の衣料を着て過ごすほど、冷夏で凶作をまねいていますが、翌年は落ち着いていますが、天明6年に洪水や冷害で再度大凶作が発生しています。

「天保の大飢饉」の直接的な影響に加え、浅間山(天明3年)大噴火による火山灰は関東一円を中心に飛散し、江戸に3cm程の灰が積もり、さらに浅間山から約400km以上も離れた陸中海岸(岩手県の太平洋側の海岸)まで灰が届き、火山灰で日照不足に加えて気温低下で農作物に害をまねき、更に浅間山噴火する少し前の3月には標高1,625mの岩木山(青森県津軽平野の南西部)の大噴火で、東北地方は降灰で農地に大きな被害を与えています。この「天保の大飢饉」に関して、「杉田玄白」の著書『後見草』の様子が「津軽地方では、草木をも食べつくし、挙句の果てに死人の肉も食べ、人肉を犬肉と偽り売り歩き、更に、多くの領民が領地から逃亡しもの、近辺の村落のどこにも食料が無く1日当たり1,000人~2,000人の死者が増えた」と記されています。

死者増加の理由に挙げられている例に、飢饉に併せて腸チフスや赤痢・流行風邪・マラリアなどが各地で流行し、仙台藩では天明3年10月以降に餓死者が14万人から15万人に併せて疫病の流行で30万人の死亡があったようです。

\*：1回目は1854年(安政元)11月4日午前9時すぎ、安政東海地震は房総から四国までM8.4発生。

\*：2回目は1854年(安政元)11月5日午後4時頃、安政南海地震は紀伊から九州までM8で津波が襲って、ロシアの国のプーチン艦船が修理のため伊豆戸田に移動中に地震津波で沈没しています。なお、「伊賀上野地震」「安政東海大地震」「安政南海大地震」は、「江戸安政の大地震」を上回る規模の地震は、わずか4日間で発生しています。

\*：3回目は1855年(安政2)10月2日午後10時頃、通常、「安政の大地震」を言い、江戸を中心に発生し、震源地は東京湾北部の荒川河口あたりの説や千葉県北西部とする説もありますが、江戸を中心に神奈川、千葉、埼玉など関東全域に揺れ、被害は、神田小川町・下谷・根津・浅草・本所・深川・吉原・千住で家が多く倒壊し、江戸城の櫓・門・堀・石垣は崩れを免れています。

(『幕府沙汰書』『時風録』)で、この地震で江戸の死者は、武家方・社家・寺院を籠めて幾ばくの人数か分からない、取めなば1万人に余るなるべし。変死人の届出数3万人余、或は5万人余とも聞え、甚だしきは20万余人などと、聞えるが何れも皆、浮説にて取るべからず(『破窓の記』)に記述され、地震発生、その夜、幕府は、火災消火活動の指示を皮切りに、矢継ぎ早に「お触れ」で、「家業長く相休候而は諸人及難儀候間、銘々持前之商ひ此上不差支売々いたし可申」と、被災した新吉原(台東区千束)郭内より市中の「所々」に「散乱」している遊女や、商人に早く元の生活に戻るよう指示をしています。

「参考=マラリアは熱帯地域の感染症として、東南アジアなどのガイドブックでは旅行の際に注意するよう」と記されています。マラリアに関するわが国の歴史資料に「おこり」や「瘧病(おこりやまい/ぎゃくびょう)」と称する疫病が登場しますし、源氏物語の主人公の光源氏が、「瘧病」の回復を祈る呪術的儀式を行うために寺を訪れるエピソードより、当時の社会でマラリアの感染症があったことが窺えます。

現在でも世界で年間約2億人が感染し、そのうち44.5万人が死亡、HIVや結核とともに世界三大感染症といわれています。

## 7：浅間山・岩木山の噴火地震で疫病感染に生活援助金支給

江戸時代後期の天明から天保にかけて浅間山・岩木山の噴火灰で太陽光線を遮り冷夏の異常気象、農作物は不作で人々は飢餓による体力衰弱で「風邪・風疫・風疾・疫邪・時気感冒・天行感冒」が拡大・激化した誘因と考えられます

このような状況下で、安政地震で江戸湾起因の津波と洪水災害で、1614年(慶長19)「風邪のために民は病み、食をとると下痢をする、食欲がなくなり」「風邪は万物に害を与え、民を病が倒し」1772年(天明9)6月に日光草津宿で「風(風邪)」が流行で、人々は藁人形を作り太鼓を打ち鳴らしながら、風邪の病魔の藁人形を村境で燃やす風習が生まれ、この風習は今日も各地で見られます。

わが国の感染症の発生・伝播の経路を見ると、長崎が当時唯一の外国に開かれた門戸であったことで、先ず長崎を起

因し、続いて中国地方から上方を経て関東により奥羽へと東進しています。その一例として、1802年(享和2)3月16日に江戸で風邪の大流行で、町民が医療費や生活に難儀していることを11代家斉将軍が聴き、町奉行に臨時救済措置で下記の指示をしています。この臨時救済措置と家斉自身の子供57人の冠婚葬祭費用で、幕府は財源が困窮しています。

\*：名主(町内会長)の支配下にある者を限定で、会所(役場)に人別帳(住民票)を提出させて、家族子供のうち3歳までの子を除き、4歳以上の家族がいる者、独身者は、銭3百文、2人以上の家族は250文を付与する「風邪病人之有無に不拘、独身之者は壹人銭三百文」「其之日稼之者共」「棒手振(行商)」「日雇稼ぎ、諸々、其日稼之賃金之者、家内賦助之者」に「銭1文≒10円」、4人家族で支給「千文≒約1万円」の臨時措置は、当時の町民に十分な医療費と生活援助をしています。

2021年のコロナ蔓延の頃、政府が、家斉将軍の真似？各市町村経由で国民1人当たり10万円の生活援助の給付は記憶に新しい。

## 8：風邪の名前は流行歌と流行語

インフルエンザに「印弗魯英撤」という漢字をあてたのは、幕府医官の伊東玄朴が翻訳した『医療正始』が始まりで、インフルエンザは、世界的に流行することが多く16世紀から現在まで流行が約31回あり、そのうちで最大のスペイン風邪流行は、1918～1920年(大正7～9年)頃に新型インフルエンザ(H1N1)発端は、1918年3月アメリカ陸軍基地内で発生、その後フランス北部の港町エタブルのイギリス陸軍基地で流行しています。感染経路は、鳥インフルエンザで豚を介して人に伝播し「兵士の第一次世界大戦ヨーロッパ戦線に参戦」で感染拡大し、1918年秋～1919年1月末にかけて1千900万人以上が感染していますが、わが国の死亡率は低く、理由は新型コロナ(COVID-19)流行時のマスクと、手洗い、換気と日常生活の中で常態化のライフスタイルによると推察しています。

江戸の人々は、数年おき(長くても十数年おき)に襲いかかる風邪(インフルエンザ)の流行に異名を与えることで、その悲惨さを記憶に刻もうとしたのでしょう。興味深いのは風邪流行の年で、風邪に異なる名が次のように付けられていることです。

- \*1716年(享保元)10代将軍家治幕府の江戸町の風邪流行で一か月に8万人以上の死亡が記録されています。
- \*1776年(安永5)流行の風邪は、「お駒風」は2月5日、城木屋の遊女お駒を題材の浄瑠璃が流行による。ほかに横綱「谷風」が風邪で最初に罹患したことによる。
- \*1802年は「アンボン風」・「薩摩風」・「お七風」の流行は、長崎にフランス漂流船名「アンボン」が02年1月を起因で、長崎から九州をへて京都に2月20日～3月20日に蔓延し「薩摩風」とも呼ばれ「一家で免れる者はなかったが、漢方薬の小柴胡湯(しょうさいこうとう)肺炎や風邪に摘要を用いて治る軽い風邪だったようです。風邪は江戸で2月～4月に流行して八百屋お七の小唄が流から「お七風」と呼ばれ、貧民感染者は幕府から「お救い米」が配布されています。
- \*1808年は「ネンコロ風」は小唄の「寝々ねんねん転々ころころ節」が流行。
- \*1821年「ダンホウ風」は2月中旬から西は関西、東は千葉県、南は伊豆から北へ山梨や長野・新潟県におよんで、その頃「ダンホサンサン」と囃はやすことが流行で「ダンホウ風」と呼ばれています。
- \*1827年「津軽風」は北米からロシアを経由し5月頃に上陸。津軽風の由来は同年4月、11代将軍家斉太政大臣就任に、津軽藩10代藩主 信順は禁止されていた轅長柄輿こし(前方に長い棒が2本突き出した駕籠)で大勢の家臣を連れ江戸城に登城が原因で、70日の外出禁止処分を受けた風評名称です。
- \*1832年「琉球風」は天保の大飢饉の年で9月下旬から西国で流行し、霜月(11月)に奥羽に蔓延し、琉球(沖縄)使節が江戸到着の11月16日は初雪が降り、管弦での行列を称し、「江戸では感冒免れる者なし」、漢方薬により軽症で癒えています。なお幕府より御救い米が配布されました。
- \*1854年「アメリカ風」は正月から2月にかけて、江戸で大流行し、アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーが1月16日浦賀に軍艦7隻を率い再び神奈川沖に来航でよばれています。

## 9：安政の箇労痢(ころり=コレラ)

将軍の感染予防のお触れの資料を検索できませんでした。将軍の日常生活を推測すると、排泄処理は御付き役・飲食物は加熱処理した食品を摂取と、コレラの感染予防機序が満足しているためでしょうか。

一方、町民は安政2年の大地震、同3年の風水害に続いて、同5年は長崎に始まったコレラ感染が、中国地方・阪神・東海道筋を経て7月に江戸で感染が発生し、8月には大流行し『安政箇労痢流行記』で別名コレラを「転寝の遊目=ねころびのゆめ」金屯道人(仮名垣魯文)編の記述には、安政5年、町ごとに50～60人から100余人の死者で火葬できない棺が山積みになった光景や、コレラは妖怪変化の仕業として「狐狼狸=ころり」と呼ばれ、溢れる病者と屍の江戸の様子が、鮮やかな多色刷りの絵を資料として見るができます。

8月大流行の病勢は9月に入って衰えましたが、コレラは各地で小さな流行を繰り返したのち、1862(文久2年)に再び流行し、夏には麻疹も大流行し、更に追い討ちかけるようにコレラも安政5年の死者数を超える流行で「虎烈刺」「虎列拉」「虎列刺」と【虎】の字があてられています。

幕府はコレラの流行を確認した、1862年(文久2)に、従来の蕃書調所を洋書調所と洋学の研究機関「洋書調所(ようしょらべしよ)」翌3年、開成所と改め杉田玄端((1818-89)に命じて、オランダの医師フロインコプスの著書のコレラ予防法等を訳させ、『疫毒予防説』と題して刊行し、予防法の主な内容は、「部屋をよく乾燥させ、こまめに換気」・「み

だりに井戸水などを飲んではいけない」「身体と衣服を清潔に保ち、適度の運動と食生活を心がけること」など、今日においても感染症予防の指導で使用されています。

なお安政コロリの流行時、憑き物落としにオオカミ信仰が流行し、呪具を作るのにオオカミの乱獲が行われ、これがニホンオオカミの絶滅に関連したと伝承されています。コレラは明治時代でも2年～3年おきに大流行しています。

### 10：黒船来航と江戸直下型の大地震で感染症が流行

関東大地震(大正12)・東日本大震災(2011年3月11日)は地震・津波に加え、福島第一原子力発電炉心のメルトダウン事故の解決年数がみえないまま14年が経過しています。

一方、1854年(安政元)13代家定が治政下で、江戸直下型地震が発生した、前年の1853年(嘉永6)アメリカ合衆国海軍東インド艦隊を率いるペリー代将が、浦賀沖に黒船来航で、幕府はもちろん、町民も大騒ぎの3日後に幕府は次の触れを出しています。

- 一、異国船到来に付き、火の用心を入念にし、冬や春のとおり、屋内で静かにしておくこと。
  - 一、銭相場をはじめ高値でとりひきをしてはならない。
  - 一、物見がましいき船はいっさいでていかないこと。
  - 一、町々でより集まって、異国船の「妄説」など絶対にしないこと。「町々で寄集り、異国船之儀に付、妄説等堅致問敷者也」嘉永6年ペリーは開国の返事を幕府に求めるため、翌年1854年(安政元年)1月16日、再び来航しますが、幕府は、黒船が大砲で攻撃してきたらと脅え12月から矢継ぎ早に、次の触れを出しています。
  - 一：この度浦賀表へ異国船が渡来することにつき、防備のために武家をそれぞれ配置している。「浮説」いろいろ流れているが、異国船は「願筋」があってやってくるので、町の者はあまり騒ぎたてたりしないように。
  - 一：異国船が江戸湾に乗り入れてきても、半鐘を打ち鳴らしてはならない。火消しの必要が出てきたら「早拍子木」で町々に次々に知らせ、町火消が現場に駆けつけること。
- 「幕府は開国に応じましたが、しかし、天然痘発症出35歳死亡した孝明天皇「明治天皇の父親」は、徳川幕府に対して異例といえる黒に関する勅書を出し、海防の強化と開国に反対し、外敵(外国の侵略)を撃退する「攘夷」姿勢を逝去まで強くもち、これが契機で欧米の脅威を打ち払おう尊王攘夷の動きが、各藩の武士を主体に活発化し、倒幕機運が高揚しています。

### 11：疫病流行の民間薬(時疫流行候節之薬方触書)

天明3・4年の大飢饉で人々は草木や人肉などで飢えをしのぎ、これが原因で感染症(疫病)が蔓延したので、幕府は全国の幕領・私領を対象にして、天明四年五月触書「薬法書付を廻状方式で「時疫流行候節此薬を用いて其煩をのがるべし」と、薬商の薬在庫が底をつくほど、人々は民間薬の処方頼るほど苦しんでいたと推察できます。

- 一、大粒なる黒豆能煎て壺合、甘草一匁水にてよく煎じて、時々吞てよし
- 一、茗荷の根・葉を突き砕いて汁を絞、たくさん飲む
- 一、牛房をつき砕、汁を絞、茶碗に半分宛二度分け飲み、其上桑の葉を一握程火にて炙り、黄色に成たるとき、茶碗に水四盃入、二盃になるまで煎して、飲んで汗をかきてよし、若桑の葉なけば枝にてもよし、
- 一、急方高熱を出して、気運のこくと騒て苦しむには、芭蕉の根を突き砕き、汁を絞て飲んでよし、草・木・きのこ・魚・鳥・獸など喰煩に用て、其死を遁るへし、また一切の食物の毒にあたり苦しむには、煎りたる塩を舐め、もしくは、ぬるき湯にかきたて飲んでよし、特に草木の葉を喰いて毒にあたりたるに特によし
- 一、一切の食物の毒にあたりて、胸苦しく腹張り痛には、苦参(クララ=マメ科多年草)を水にてよく煎じ飲み食を吐出してよし
- 一、一切の食物にあたり苦しむに、大麦の粉を香ばしく煎りて白湯にて度々飲んでよし
- 一、一切の食物にあてられて、口・鼻より血出て悶え苦しとは、葱を刻みて壺合の水にて能煎し、冷やし置て幾度も飲へし
- 一、一切の食物の毒にあたり煩に、大粒なる黒大を水にて煎し、幾度も飲んでよし、魚にあたりたるには特によし
- 一、一切の食物の毒にあたり煩に、赤小豆の黒焼を粉にして、蛤貝にひとつづつ程宛、水にて溶かして用ゆへし、獸の毒に当たりたるに特によし
- 一、菌を喰いあてられたるに、忍冬(スイカズラ)の茎・葉とも生にて咬み、汁を飲んでよし

### 12：民間薬の販売と偽薬取締まりの触書は

医者にかかるのは、待たされるので面倒、幕府も認めた町民が愛用した市販の売薬は、今日も使用されています。

- \*越中富山の反魂丹：腹痛・気付けに効く
- \*小田原のういろう：頭痛・眩暈・歯痛に効く
- \*木曾御嶽の御百草：胃腸病・整腸に効く
- \*奇応丸；癩・小児の疳の虫・腹痛に効く
- \*万金丹：解毒・鎮痛に効く
- \*紫雲膏：火傷。腫物に効く
- \*地黄丸：強精に効く

\*石見銀山の砒素：殺鼠に効く

しかし、次の御触れでみられるように偽薬造ってはならないと、もし偽薬や毒薬を売るものがあれば訴え出なさい、その者に褒美を与えると幕府は1671年(寛文11)11月1日付で規制をするほど、偽薬販売が横行しています。

一、諸国に於て似せ薬種一切可爲停止

一、毒薬一切売買不可仕事

### 13：吉宗設置の無料診療所

小石川養生所が開設されたのは1722年(享保7)8代将軍徳川吉宗の時代で、文京区白山の小石川植物園(東京大大学院理学系研究科付属施設)に、無料で診察が受けられる貧民救済の公的医療施設で、設置のきっかけは、人々の声を聞く目安箱に「貧しい者は病気にかかるとうなるのか」と、町民の投書に吉宗が関心を寄せたことからで、感染症対策の根本的な医療福祉体制の初期施設で、現在、小石川養生所の井戸の跡が残っています。また庶民に薬は高価で、病は祈禱に頼る風潮の中で吉宗は輸入に頼っていた、万病に有効な高価な朝鮮ニンジンの栽培を推進し、現在の朝鮮ニンジン薬の供給体制を築いています。

### 14：令和に続く備蓄米制度

吉宗の没後約30年に起きた1782~88年の天明の大飢饉は米価が高騰し、東日本を中心に餓死者が続出し、江戸で生活困窮者が、両国蔵前の米問屋を打ちこわす「庶民の米一揆」の発生で「都市崩壊」に陥る政変に発展しています。幕府は政権維持のため寛政改革策として、凶作に備えて米・粃・稗・麦など穀物が多く「備荒貯穀(びこうちょこく)」倉に貯蔵しています。しかし穀類は長期間保存しておくに鼠や虫に食べられことを防ぐため、貯蓄穀類を領民に貸し与え、利米「借米の利子として払う米」を返済させることで、倉の穀物を定期的に入れ替え、備荒倉としての機能は、令和時代の政府に続いています。寛政改革を主導した老中・松平定信は、地主から徴収した町の運営費を節約した7割を積立てる「七分積金」を非常用に備えた処置は、現代でいう共済組合や持続化給付金に似たシステムを生み出していますが、庶民からは「今何も起きていないのに、何のために徴収するのか」という強い反発があったようです。

### 15：江戸明暦大火でも、米軍の東京空襲でも焼死10万人

1945年(昭20)3月10日米軍B29型爆撃機300機が台東・墨田・江東・中央・千代田の木造家屋密集地帯に油脂焼夷弾を無差別に落とし、北風強風の夜間の火災で市民10万、焼失家屋は約27万戸、約100万人が罹災したとされ詳細な数字は公表されていません。江戸時代も町家で火災が多く、特に、家綱10歳で将軍職の1657年(明暦3年)「明暦の江戸大火(俗称・振袖火事)」は、文京区本郷円山町の本妙寺が火元で男女10万人余焼死し、死者の霊を旧日本大学講堂に隣接していた両国回向院を建立し慰霊しています。

この火事で江戸城本丸を初め、大名屋敷も多く焼け、幕府は大名屋敷や寺社を郊外に移し、跡地を広小路と称する広大な空き地を火除地で設けて延焼防止するとともに、火災を契機に隅田川に両国橋を架け、火災瓦礫(がれき)や焼土で農村地の本所・深川地区の埋め立てに使い、墨田区・江東区が下町として急速に拡大しています。このようななかで5代綱吉「生類憐れみの令」時代の明暦の大火の復興事業は、江戸橋広小路(千代田区)に、170軒の商床見世(あきないとこみせ)が並び、水茶屋・矢場・講釈場・辻番所・髪結床・船宿。牛置場と商業、文化施設が設けられています。その後、1682年12月(天和2年)江戸大火で本郷追分の八百屋太郎兵衛の娘(お七)が、文京区駒込円上寺に避難した際、寺小姓の生田庄之助に恋をして、火事になれば逢えると恋心で放火した、お七は、捕らえられ、鈴ヶ森(品川区)で火刑に処せられています。その後、お七を題材に伊原西鶴作「好色5人女」や、歌舞伎「お七歌祭り文」で、彼女は登場していますし、綱吉時代の1703年、播州赤穂浪士の忠臣蔵討ち入り事件があり、町民の関心と呼び、令和の12月に恒例で放映されています。1721年(享保6)8代将軍吉宗の命令で全国の人口調査を実施の江戸50万人、以降、幕末まで50~56万前後で推移し、1801年(享和1)人口調査対象外の江戸在住大名と武士、寺社関係者約50万人、町人約50万人の合計100万が居住しています。当時、英国ロンドン86万人、パリ54万人です。令和5年8月1日東京都の人口は、区部が9,778,923人です。

以上

「ここまで笑読いただき、ありがとうございます。本学1961年卒より64年間を経過、学友の多くは彼岸に旅立ち、此岸の学友は服薬と趣味で限られた人生を日々送り過ごしています。残念に思うことは、角笛会支部・本部の活動「会報誌」発行に、事務局各位の努力の存在を知らないことです。「脱字や語句表現の誤りはご容赦を」

### 余談

#### 1：江戸時代は明治まで

東京のまちは、12世紀の初期、この地を秩父一族の支配者「江戸四郎重継」が、関東武士の拠点にしたことで、「江戸」の地名が誕生、やがて、江戸氏は没落、1456年(康正2年)太田道灌資長が、現国立近代美術館(東京都千代田区平川町)周辺に、城を築造し生活を送っていましたが、その後、小田原北条氏の支城になっている当時、この地は湿地地帯地で「町やなども茅葺きの家百ばかりもあるかなしの体、城もかたちばかりにて、城の様にもならず」と、景色が記されています。【江戸城】(村井益男著)中公新書

時代は移り、明智光秀の謀反で織田信長死亡、天下統一を果たした豊臣秀吉は、徳川家康の「鳴かぬなら鳴くまで待とうほととぎす」すなわち、「機が熟すまでじっくり待つ」という忍耐強い性格を認識しているため、秀吉居住の大坂城から遠い、僻地の関八州(現在の関東地方)支配職として、江戸(東京)に転封(転勤)させ、1600年(慶長5)豊臣秀吉の病死後、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、朝廷より全国約260~270大名藩の統帥將軍職を受け西軍側の大名の改易や減封を進め、東軍側大名への加増や徳川家の領土の拡張などを行い、1867年11月9日(慶應3年10月14日)に15代將軍徳川慶喜が朝廷に大政奉還まで將軍職世襲265年間「戦争のない平和な時代」が続く世に、今日の上下水道・交通・警察・消防・医療など、東京の社会基盤づくりを行ったと、理解しています。

## 2：東京の基盤づくりの貢献者は徳川幕府

今日、鉄骨高層階のビルが林立する東京都は、家康が幕府を開府した当時は、江戸城の周囲は葦の生い茂る湿地帯で、梅花の時期から初雪が降るまで、蚊の吸血で人々は悩まされていたと推測します。

この湿地帯の埋め立て工事を資力に富む関西・九州の大名に経費負担を禄高千石に付き10人の労役供出を課し、併せて、幕府に対する謀反抑圧のため、大名家族を人質とし江戸に居住を命じ、藩主と藩士の一定人数を隔年交代させる参勤交代制度を42年間にわたり定めています。

幕府開府当時の江戸人口は約35万人、家康三男の秀忠が(54歳死去)次代將軍より本格的に江戸基盤づくりを大名に分担工事「天下普請」、「御手伝普請」で進め、まず東北の伊達政宗の勢力に備え、江戸城に近い神田台地を掘削【総武線「御茶ノ水駅」から東京医科歯科大学に渡る聖橋下「神田川」運河の兩岸壁の高さ(深さ)]し防衛の堀を設け、その残土で、現在の日本橋を中心に、南北は新橋・京橋・日本橋・神田に至る、埋め立て、道路を敷設して、町々を道路に面して割り付け、町名を工事担当大名の国名を冠して、駿河町・尾張町・加賀町・因幡町などと、商人や職人の居住町に併せて、材木町・本石町・紺屋町・桶町と、幕府御用を勤める職人町名に鉄砲町・本草屋町・金吹町などは、今に残る地名です。

### (1)：江戸の町づくりは出稼ぎ人

江戸町づくりの始めた当初、江戸町民は男が多く、特に信濃国出身者が農繁期に生活費を得るための出稼ぎ(日雇い稼ぎ)江戸に来るため、幕府は、地方藩主より米の上納年貢(米を税収)の確保に必要なだから「江戸に出稼ぎに来るな=奉公稼ぎ出候者多、所持之田畑を荒置候類有之由相聞、不埒之至候」と命じています。

ところが、江戸後期になると幕府は農村の荒廃を恐れ、1777年(安永6・5・23)に出稼ぎ制限を「最近、農民たちは、耕作を怠るところか、生活に困っていると偽り江戸に出て、商家に奉公し、田畑を荒らし放題にしているものが多いと聞く。けしからん、今後は村役人が調査し、もし出稼ぎに出ている者がいたら、残っている村人で農耕をせよ、もしも本当に生活に困窮者は期限を付けて許可するが、期限が来たら帰農すること、もし村人に迷惑をかけていることを気にせず田畑を荒らし放題にすることがあれば、本人も村役人も処罰する」と命じています。今日、若手の農耕従事者の離村で人手不足が叫ばれて久しいですが、江戸時代も同様な問題が事例を触書からみられます。

### (2)：町人の居住環境は

居住は、上野・神田を埋め立て町割り、表道路に面しては商店、裏通りに棟割り平長屋の6畳一間で寝起きし、洗面・調理・洗濯は共同井戸で、この傍らに排水は溝井戸の近くに共同汲み取り便所。入浴は蒸し風呂(スチームサウナ)の共同浴場(いわゆる銭湯)で、明治まで男女混浴で利用していましたが、明治に至り西洋文化を取り入れ現代の男女別の設備になっています。町人の日常生活環境は劣悪で消化器系(赤痢・コレラ)や呼吸器系(結核・感冒)、接触(天然痘・麻疹・水痘症・疥癬・梅毒)の感染流行が多くみられ、治療薬剤は高価な朝鮮人参、ほとんどが病に感染すると、神罰の祟りと、神に疫病の退散を祈願しています。

一方、幕府の疫病対策は、將軍家族の感染を恐れ、將軍に仕える大名藩主や藩士・旗本たちが発病すると、完治するまで登城勤務の免除を強く指示していますが、5代將軍綱吉と正室は天然痘で死去し大奥の女性も多数感染しています。

## ■ 仏教伝来で猛威を振るった天然痘(痘瘡)と終息

青木蓉冶(昭和36年卒)

### 1：天然痘(痘瘡)終息

エジプトで発掘された、1350年代のミイラに天然痘(痘瘡)発症痕があると史実に紹介されています。天然痘(痘瘡)は旧来より人々を苦しめてきましたが、1796年5月、英国のジェンナー医師が牛痘にかかった女性の発疹から膿をとって、天然痘に感染したことの無い少年の腕に接種したのち、約7週間後、同じ少年に天然痘患者の膿を接種しましたが、少年は天然痘を発症しませんでした、少年に天然痘に対する免疫ができたらしい。この接種から、約184年を経た、1980年5月世界保健機関(World Health Organization; WHO)は天然痘発症根絶の宣言を行い、併せて、ワクチン用苗種の廃棄処分の決議で、世界各地の研究所では保管していた、天然痘苗種を廃棄しました。しかし、米・ソ両国は「生物テロ対策用」の名目で保管していましたが、旧ソ連の崩壊で、ソビエト連邦で保管していた天然痘苗種と核兵器が、80年代後半から90年代の初めに他国に、科学者と共に散逸の衝撃的な出来が発生しています。

注：法律用語で伝染病と感染症の違いは、1897年(明治30年)4月1日に公布された「伝染病法」は、1999年「感染症の

予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)で施行、運用。旧法文で「伝染病」文言は、現行「感染症」に改められていますが、「家畜伝染病予防法」では「法定伝染病」や「届出伝染病」で使用されます。

## 2: 天然痘(痘瘡)類似の「サル痘」流行の恐れが

近年、わが国に天然痘類似疾患「サル天然痘」流行の恐れがあるとして、厚生省は「サル痘」を感染症法4類(動物由来)指定しましたが、「サル痘」はサルだけに感染するわけではなく、名称が紛らわしいことから「Monkey pox」の頭文字「M」をとって、令和5年5月26日から「エムボックス」と感染症法上で名称変更されています。

本病の病原体は齧歯類のラットやリスが宿主となるポックスウイルス科ウイルスで、人に対する感染経路は感染者や動物の皮膚病変部位・体液・血液や接触(性的接触を含む。)、また患者と対面時飛沫の長時間曝露(prolonged face-to-face contact)、患者寝具等でも感染し、症状は発熱と発疹、多くは2~4週間で自然に回復するようです。

2023年(令和5)5月7日時点の国内感染者数は、135名全員男性、9割以上に海外渡航歴がありません、厚生省は感染蔓延の懼れを警告しています。

## 3: 九州大宰府が最初の天然痘(痘瘡)発生地

受験生が合格を祈願する学問の神様「菅原道真」は、901年、政敵の告げ口で奈良平安京から遠く太宰府に左遷されるさいに、彼の屋敷の紅梅御殿の庭木で、特に愛でていた梅の木との別れを惜しみ、その時、白梅の木に語りかけた有名な詩が「東風ふかば にほひをこせよ 梅の花 あるじなしとて 春なわすれそ『宝物集』」と詠い、梅は道真を慕い、都から一夜かけて飛んできた「飛梅」は太宰府天満宮でご神木として、本殿の手前に今もあります。

なお、大宰府天満宮の境内で収穫された梅の実の大半は梅干しにして、その年の11月1日に初梅献上祭で奉納した後、道長の月命日25日に天神様の梅として販売されています。

仏教は、この大宰府の地に、インドより中国に伝わり、372年に(旧朝鮮半島)高句麗(こうくり)・384年には百濟(くだら)を経由し、九州地方や関西地方、特に奈良方面に至っています。当時、奈良に朝鮮国の人々が多く渡来し生活しています。

### (1): 地方行政機関の所在地だった大宰府

7世紀後半の福岡県大宰府(だざいふ)は、和名「おほみこもちのつかさ」と称して、九州の筑前国に設置する地方行政機関で軍事・外交と九州地方の内政も担当する地区に、735年(天平7)8月に、玄界灘の波浪を超え遣唐使が、大陸文化・風習仏像・経典に併せ天然痘(痘瘡)を持ち込まれ、地区住民は天然痘に感染し被害が拡大し、この状況を把握した役人が8月23日付で朝廷に対して、住民に対する当年度の税一部免除を要請し、朝廷より税免除を受けています。

天然痘(痘瘡)蔓延は、翌736年(天平8)に至っても続き、農民の多数は発症で死亡し、農地放棄に追いやられ、農作物収穫量も激減、これが原因で飢饉に至ったと、日本書紀「天平の疫病(痘瘡)」の症状は「発疹ができて激しい苦痛の末に死に至る」と、国内総人口約600万人のうち、25%の死亡が記述されています。

### (2): 平安中期時代の辞書で疫病とは「民が皆病むなり」

平安中期時代の編纂辞書「倭名類聚抄=わみょうるいじゅしょう」の「疾病部」で、疫病とは「民が皆病むなり」とあり、『古事記』や『日本書紀』で「疫病」は「えやみ」・「えのやまい」と記述されています。「倭名類聚抄=わみょうるいじゅしょう」編纂は、西暦931年~938年(承平年間)醍醐天皇の第5皇女(904年(延喜4年生)の求めで、源順(みなもとのしたごう)が編纂に当り、各地で超自然的な荒振る神・疫神(疫病神)・疫鬼・怨霊の仕業や、仏罰・神罰で、「疫」流行と終息を願う加持祈祷の祭礼を収集し、鎮花祭・道饗祭・四角四境祭・鬼気祭・疫神祭・御霊会などの名称で祭礼を分類し編纂しています。

平安時代の名残の祭礼は、令和の時代でも各地で催されています。

天然痘感染で人々が多く死亡していますが、幸いにも完治者の顔面は凹凸残痕から天然痘を「裳瘡=もかさ」・「ほうそう」痘瘡・痘瘡・豆瘡・豌豆瘡・芋瘡と称していますが、「医学用語で天然痘の語が使われています」

『類聚符宣抄』という太政官符・宣旨の収録書1通の737年(天平9)6月26日付の「太政官符東海東山北陸山陰山陽南海等道諸国司疫病治療法および禁止事項の[7箇条書官符]」の記述に、本文の到着次第国衙で写し取り、本文を郡司の主帳以上1人を使人として、ただちに隣国へ送付し、留滞させてはならぬ。また国司は所管の国内を巡行して百姓にこの内容を告示せよ。

訳; 百姓のうちに重湯や粥にする米のない者がいたならば、国司は正税の倉を開いて賑給(しんごう)し、その使用量は記録して太政官に報告せよ。この官符は太政官の発行した正文であるから、官印を押しておく。官符到着次第、実行せよ。以上のように、太政官は疫病についての心得を、国司を通じて全国の百姓に周知徹底させようとしており、この文書を全国の諸道に複写し、発送しています。

## (3)：【痘瘡対策7か条】

- 1)：今回の疫病は赤斑瘡という。発熱時の症状は瘡(おこり、悪寒・高熱をともなう病気一般)に似ていて、発熱後3、4日、或いは5、6日で発疹し、瘡(そう、吹き出物)の出る期間も3、4日続く。
  - \*患者の全身は焼けるように熱く、しきりに冷水を飲みたがるが、決して飲ませてはならない。
  - \*瘡が出終わると熱も引くが、下痢が併発する。
  - \*早く治療しないと下血する、下血は発病当初からの場合もある。
  - \*併発する症状は4種ある、咳・嘔吐・吐血・鼻血である。
  - \*下痢は最も急いで治すべきものである。これらを知った上でよく治療に勤めるべし。
- 2)：布・綿で腹・腰を巻き、必ず温かくしておく。冷やしてはいけない。
- 3)：患者を地面に寝かせておいてはならない、床に敷物を敷いて寝かせるように。
- 4)：重湯、粥、煎飯、粟等の汁は温冷問わず好みで与える、鮮魚・冷肉・果物・生野菜はいけない、特に生水・水はかたく慎むように。
  - \*下痢を起こしたら、煮た菰や葱を多く食べさせると良い、血便や乳状便が出たら、糯粉と米粉を混ぜて煮、一日に数度飲ませる。又、糯や粳の糯を湯で溶いたものを用いる。
- 5)：下痢が止まらなければ、5、6度に増やし、必ず白(うす)で全てを挽いたものを用いるように、およそこの病気は食事を嫌がるものだが、無理しても食事させなくてはならない。また海草を炙ったものや、塩をたびたび口に含ませると、口や舌が荒れても、結果が良いようである。
- 6)：回復後も20日間は鮮魚・冷肉・果物・生野菜を摂取してはいけないし、生水・水浴・房子の類や、風雨の中を歩いたりすることも慎むように。この注意を守らないと必ず霍乱(かくらん)になって下痢を再発する。
  - \*これを勢発・労発というのだが、そうなったら、愈耐(ゆふ)・扁鵲(へんじやく)のような中国古代の名医を連れてきてても手遅れである。
  - \*20日過ぎれば魚も肉もいい。ただよく炙ってから食べる。乾鮑(ほしあわび)・堅魚(なまりぶし)・乾肉の類もいだろう、しかし、鯖(さば)や鰻(あじ)はたとえ干物でも止めておくように。
  - \*年魚(あゆ)もいけない。蘇(乳製品)・蜜・豉(豆腐)などはいいい。
- 7)：およそ疫病を治そうと思うなら丸薬・散薬など(怪しげな薬・効力のないもの)を用いないように、もし熱が引かなければ、僅かの人参湯を飲む。

## 4：伊勢神宮は疫病対策で設置

「日本国民の象徴」(憲法)と定められている天皇は、歴史を遡ると日本の王様で、初代の神武天皇から10代目に実在の可能性のある崇神天皇(すじんてんのう)が、令和時代を遡る1700年以前に、国の祭祀・軍事・内政の基盤を整備したとされています。

崇神天皇13歳(西暦1年13日)即位5年後の編纂「日本書紀」の疫病に関する記述に疾疫(えのやまい)多くして、民死亡(まか)れる者有りて、且大半(なかば)にぎなむとす

## 「訳；多くの民がその犠牲となつてしまい、国内は混迷、流浪する民があふれた」

この疫病と飢饉を鎮めるため、奈良県三輪山に倭大国魂(やまとおおくにたま)という国津神(くにつかみ)と天神のアマテラス(天照大神宮殿の2神を祀(まつ)り、天皇は、朝夕、天の神と地の神(天神地祇)に疫病終息祈(いの)りしましたが、疫病の流行の勢いは、翌年(つぎ)に至っても終息に至りませんでした、この原因が、天神のアマテラス(天照大神)と(地方神の)倭大国魂(やまとおおくにたま)神の2神を並べて宮中に祀(まつ)り祈願していたことが、両神のいがみ合いに原因があると考え、天照大神を宮殿外の伊勢(三重県)に移したことで疫病が終息し、今日では正月にわが国の安寧を首相も祈願に詣(よ)でています。

## 5：奈良の大仏は痘瘡終息祈願で建立

奈良時代の710年から794年まで85年間、奈良平城京が首都の時代、交通網が全国に整備されたことで、仏教の布教と痘瘡が地方に蔓延しています。ちなみに「奈良＝ナラ」は韓国語で「国」を意味します。当時の治世は聖武天皇(701～56)で痘瘡の蔓延に伴い、人口100万～150万人のうち、25～35%が死亡しています。

奈良時代の天平17年4月27日に美濃国を中心の地震で美濃国は三日三晩、地震が続き、国衛の櫓・館・正倉・仏寺・塔・民衆の家が被害を受け、少し触れると倒壊したと、【続日本記巻16】に約20日間、地震は続き地割れで水が噴き出したと記されています。

天然痘の蔓延で、人々の間に神仏に頼る機運が高まり祈(いの)り・呪(のろ)い、と、「住吉神は三韓降伏の神なり、痘は新羅(旧朝鮮国名)の国よりきたれる病なれば、この神を祭(まつ)りて病魔の邪鬼に勝つべき」として、鍾馗・牛頭天王を(福島会津土産の「赤べこ牛」)信仰の対象にしています。なお、「ほうそ神」は、赤い物を嫌うとして、病人に赤色の衣服を着せていますし、8世紀に宮中で始まった「節分」豆まき「鬼は外」の鬼は「疫病神」を言い、「痘瘡は国外に出ていけ」の意味だそう

です。

天平地震の被害に伴う飢餓に人々は悩み、仏法の威霊で天地安泰の祈願で、初代の奈良大仏建立は、752年に疱瘡終息祈願で始まり、黄金色に輝く大仏757年に建立完了していますが、1180年(治承4)に平清盛の五男、重衡(しげひら)が神社勢力討伐のため奈良に攻め込んだ「南都焼き討ち」によって焼け落ち本尊の大仏も甚大な損傷を受けています。

大仏の表面は金の塗金工法で、木炭で加熱した金と水銀の合金(アマルガム)を仏像金属に付著させる方法、「塗鍊金四千百八十七両一分四銖。為二減金二万五千百卅四両二分銖一。右具奉レ塗二御躰一如レ件あり」

訳：41,87両の金と2万947両の水銀で、2万5,134両の混合物をつくり、

今日の換算量、金58.6kg、水銀293kgに相当し、現価格の建立費用の試算約4,657億円。【引用；日本経済新聞2019・8・6；関西大 宮本勝浩教授(理論経済学)】作業従事者数は、「大仏と大仏殿の建立に携わった延べ人数は、材木関係の技術者が5万1,590人、その配下の労働者が166万5,071人、金属関係の技術者が37万2,070位人、その配下の労働者が51万4,902人、併せて延べ260万3,638人と記録されて、当時の国民の約2人に1人が工事に参加」と【福岡県立図書館蔵書引用】記述され、金属関係の技術者や労働者88万6,972人は、建立までの2年間に水銀加熱蒸気「酸化水銀蒸気」曝露されています。暴露被害は、1957年(昭和32)公式発見された原因企業「当時：チッソ」工場排水含有の有機水銀による「水俣病」類似の神経障害、運動麻痺、記憶障害の中毒者発生を推測のすることができます。

## 6；鎖国時代に最初の天然痘ワクチン登場

古くは、疱瘡に感染すると有効な治療法がなく、ただ死を免れると二度と感染をしないことは、知られていましたが、わが国最初のワクチン接種の始まりは、1790年(寛政2年)秋月藩(福岡県)の藩医、緒方春朔(おがたしゅんさく：1748～1810)が、清(中国)から伝えられた「患者の瘡蓋を鼻から吸う方法を粉末にして鼻孔に吹き入れる方法の接種」を庄屋(天野甚左衛門)の子供に免疫獲得をさせています。この接種方法はジェンナー牛痘苗よりも6年早く行われていましたが、免疫獲得が安定しないため普及していません(出典『医家先哲肖像集・緒方春朔』国立国会図書館蔵)

1807年(文化9)徳川家斉将軍(53人の父親)時代に、ロシア軍人フヴォストフが択捉島「北海道」を襲撃し、番屋番人小頭の漁場取締役「中川五郎治」を捕虜にして、ロシア軍医師の助手に従事した「中川五郎は従事なかで牛痘接種法を習得し、1812年にロシアの牛痘苗と牛痘接種書2冊を持ち帰国し、1冊は江戸幕府の訳官・馬場佐十郎が、1820年(文政3)年「遁花秘訣」和訳されています。

中川五郎治の助手を務めていた田中正右偉門は、娘イクに、1824年(文政7)我が国で最初の種痘術を行っています。この頃、蝦夷地は天然痘が3度大流行し、中川五郎治も施術していますが、残念なことに中川五郎治は種痘法を秘術として他者に伝えなかったようです。中川に従事していた白鳥雄蔵医師により種痘技術は箱館や秋田・京都に伝達され、更に福井では笠原良策が接種の施術を行っています。

## 7；長崎出島から牛痘ワクチンの開発情報とワクチン入手まで

ジェンナーの牛痘ワクチンは、ほとんど無毒なのに対し、瘡蓋(かさぶた)を粉末にして鼻に吹き入れる方法(人痘)を使う「緒方春朔の方法」の有効性は、免疫獲得に成功すれば疱瘡に感染を免れる程度の方法で、後年、牛痘を普及させる緒方洪庵も、牛痘接種までの間は、人痘瘡蓋の免疫獲得有効性の実証に挑戦して、その後、緒方洪庵は牛痘ワクチン接種の普及に貢献が評されています。

ジェンナーのワクチンに関する情報は意外に早く、長崎で通訳をしていた馬場佐十郎(1787～1822)が、1802年(享和2)オランダ長崎商館でジェンナーのワクチン開発のニュースを聞き、その重要性を理解し、追加情報とワクチンの到着を心待ちにしている、1823年8月(文政6)オランダ商館医官のシーボルト(ドイツ人)が初めて長崎出島に6年間滞在し、鳴滝塾を開き、国内から集まる医師たちに西洋医学を教授したことが、現代に連関する医学の普及に貢献しています。

この間、シーボルトも長崎の子供に接種しましたが、免疫獲得に失敗し、その後も、牛痘苗を取り寄せますが、牛痘苗の接種の失敗原因は、欧州から船で数か月かけて運ばれる間に、痘苗は乾燥と温度変化に弱いとしています。

シーボルトは滞在期間、懇意にしていた丸山の遊女「楠本タキ」を妻に迎え、翌年二人の間に娘「イネ」誕生し、「イネ」は我が国最初の洋方産科女医になるまで、シーボルト門人の二宮敬作に医学の基礎、石井宗謙に産科、村田蔵六(後の大村益次郎)にオランダ語と蘭学を学び、1861年(文久元)長崎で開業のかたわら、長崎養生所でポンペの講義を受け、1870年(明治3)上京し、1877年(明治10)まで築地「京橋区築地一番地」で産科開業しています。なお、イネが2歳の時、1828年(文政11年)、シーボルト帰国にあたって「大日本沿海輿地全図」国外持ち出し禁止が発覚し、国外追放されています。

## 8；牛痘(ぎゅうとう)で天然痘ワクチン開発

人類が初めて手にした天然痘ワクチンは、イギリスでエドワード・ジェンナー医師(1749～1823)が、1796年に雌牛の牛痘(ぎゅうとう)を用いて、開発に成功し、この天然痘ワクチン接種が世界で進み、1980年にWHOが撲滅宣言の歴史になっています。

「ワクチン」の語源がラテン語の VACCA(ワッカ＝雌牛)で知られていますが、最初は欧米では「接種すると牛になる」という風評が広がり、免疫のない感染者25～40%が死に至ったと史実で述べられています。わが国も、たびたび疱瘡は大流行して、奈良時代に国政を牛耳っていた藤原四兄弟も全員発症し死亡。伊達政宗(1567～1636)は右目を失明。徳川幕府時代の将軍15人のうち5人も感染し、5代将軍綱吉(1646～1709)の命も奪い、明治天皇の父親の孝明天皇(1831～67)の死因も疱瘡が疑われています。わが国は1976年(昭和51)にワクチン接種義務が終了しています。

### 9；わが国最初の種痘所開設は

現在、千代田区岩本町2-7-11 お玉が池跡の近くに種痘所の記念碑があります。

「お玉が池」は徳川初期には現在の上野不忍池の広さがありましたが、江戸町づくりのために埋め立てられています。「お玉が池」由来は、池の近辺の茶屋に美人で評判の「お玉」という娘に、二人の男が思いを寄せ、お玉は、どちらに添うか悩んだすえ、池に身を投げ自死したことから、池を「お玉が池」と呼び、この場所の一角にお玉の霊を慰める「繁栄お玉稲荷神社」が祀ってある地に種痘所を開設し人々にワクチン接種を始めています。

種痘所を開設当時、江戸の漢方医たちの蘭学対する圧力が激し1857年(安政4)5月、江戸在住の伊藤玄朴や大槻俊斎ら江戸の蘭学者82名が資金を拠出して痘瘡の予防接種の普及を進める集会所「種痘所」を勘定奉行の川路聖謨の屋敷跡地に1858年(安政5)5月7日に開設して、町人に種痘接種を4日ごとに接種と西洋医学に志を持つ有志で勉学に励んでいましたが、11月15日に近所の火事で類焼し、その後、千葉県銚子の醤油業「浜口梧陵」の資金援助で、種痘所を下谷和泉橋通り(神田和泉町)に再開設しています。

種痘所は、1861年(文久元年)に幕府直轄幕府の機関となって西洋医学所と改称し、東京大学医学部の前身になっています。またシーボルトの鳴滝塾で学んだ蘭学医が全国各地に種痘所開設でワクチン接種の効果が人々にみられると、漢方医の抵抗も衰退して、逆に蘭学医学に対する信頼性は高まり、1980年5月、WHOの天然痘克服宣言に至り、我が国の痘瘡(天然痘)も終息に至っています。

天然の予防接種の手法は、Y字型の器具(二又針)にワクチンを付着させて上腕部に×印傷を付けて皮内接種し4か所痕跡がみられます。

1976年(昭和51)を境に天然痘ワクチン接種は終了しています。

以 上

御礼；ここまで笑読いただき、ありがとうございます。本稿、編纂の記述、誤脱字がある際、諸氏の寛容な心でご容赦ください。なお、角笛会会報誌の原稿集め、編集、発行と、教務外の事務の労に追われる姿の事務局諸氏に感謝「お疲れ様、ありがとうございます」申し上げます。

「参考文献の出典は文中に記載と日本風俗史辞典」

追想；1959年(昭和32)4月入学時で、今生の学友は86歳を超えています。

入学時、渋谷駅から国道246号の路面を東急多摩川電車で昭和女子大生と明治薬科大生徒同乗し三軒茶屋駅で下車、駅前のパチンコ店から流れる【有楽町で逢いましょう】流行歌を背に受けて140名出合い、1961年(昭和36)卒業時140名、クラス担任教授「川田信平」(解剖学)・副担当「大熊俊一」(微生物学・ドイツ語)

同窓の「愛信桜会」は32年入学友と36年卒業学友で母校の桜花を取り入れ結成し、角笛会の学年幹事役を六会校舎に近い東京近在の理由で受けています。

総会と親睦会には欠かすことなく出席しているうちに、いつの間にか最高齢者になっている己に驚きを覚えています。



# 日本大学生物資源科学部獣医学科教員

(敬称略 R6.4.1現在)

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866  
電話番号：0466-84-3800(代表)

## 獣医学科教員

浅野 和之  
伊藤 琢也  
枝村 一弥  
越後谷裕介  
大滝 忠利  
大野真美子  
岡林 堅  
小川 健司

小熊 圭祐  
片倉 文彦  
壁谷 英則  
鎌田 寛  
北川 勝人  
鯉江 洋  
合屋征二郎  
木庭 獵達

五味 浩司  
近藤 広孝  
佐藤 真伍  
渋谷 久  
瀬川 太雄  
関 真美子  
関口 尚希  
谷 浩由輝

遠矢 幸伸  
中山 駿矢  
成田 貴則  
橋本 統  
日向 綾子  
堀北 哲也  
増田 絢  
松本 淳

丸山 総一  
森友 忠昭  
安井 禎  
山口 卓哉  
山崎 敦史  
山崎 純  
山谷 吉樹  
亘 敏弘

## 獣医保健看護学科

小澤真希子  
坂井 学

阪本 裕美  
住吉 俊亮

恒川 直樹  
手島 健次

中山 智宏  
福澤めぐみ

松鶴 彩  
丸山 治彦

\* 角笛会のホームページは随時、更新されております。角笛会関係の行事予定、支部同窓会からのお知らせ、また最新の角笛会報など多くの情報を発信しております。さらにホームページから新住所の登録もできます。是非、お立ち寄りください。



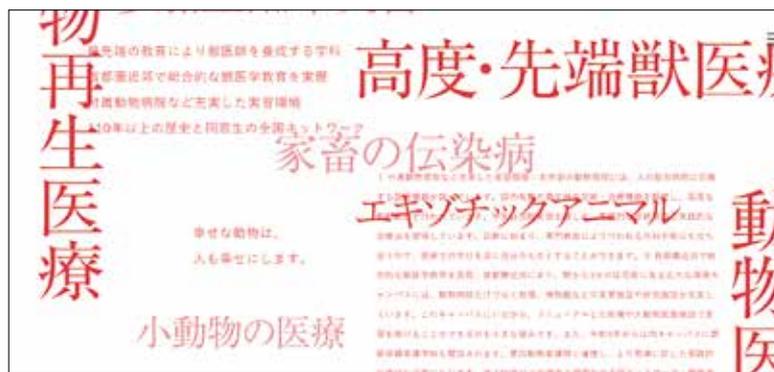
日本大学獣医学科Instagram  
<https://www.instagram.com/nu.brs.vet.med/>



日本大学獣医学科X(旧Twitter)  
<https://twitter.com/NUvetmed>



角笛会ホームページアドレス  
<http://www.tsunobue.org/>



日本大学獣医学科ホームページアドレス  
[http:// https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~NUBSvmd/](http://https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~NUBSvmd/)

## 編集後記

秋が深まり、木々が紅葉とする時季を迎えました。報道にもありましたように、秋の味覚の代表格であるサンマは昨年の不漁から打って変わって予想以上の水揚げだそうです。久しぶりに安く脂ののったサンマを食べることができ、私の数少ない楽しみの一つとして喜んでおります。これから歳の瀬を迎えるにあたり、寒暖差により体調を崩しやすい季節ですので、皆様もお体にはお気をつけて健やかにお過ごしください。まずようお祈り申し上げます。

角笛会会報にご意見、ご希望がございましたら獣医微生物学研究室の木庭(koba.ryouta@nihon-u.ac.jp)または角笛会事務局(tsunobue3@gmail.com)までご連絡ください。今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

令和7年11月 木庭 獵達(平成22年卒)